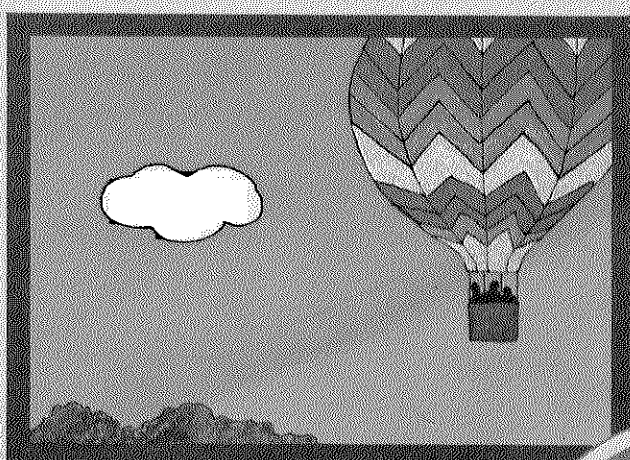
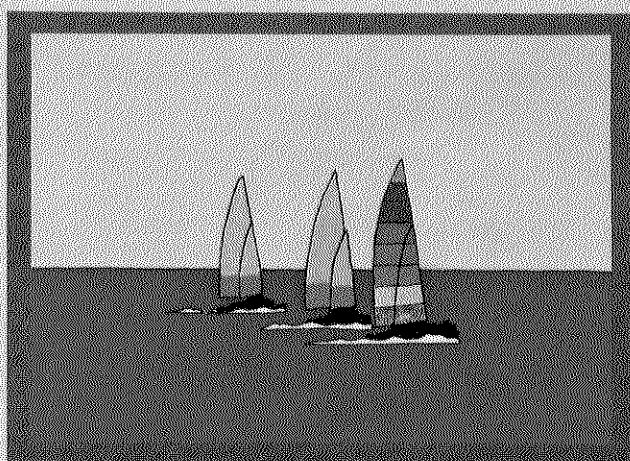
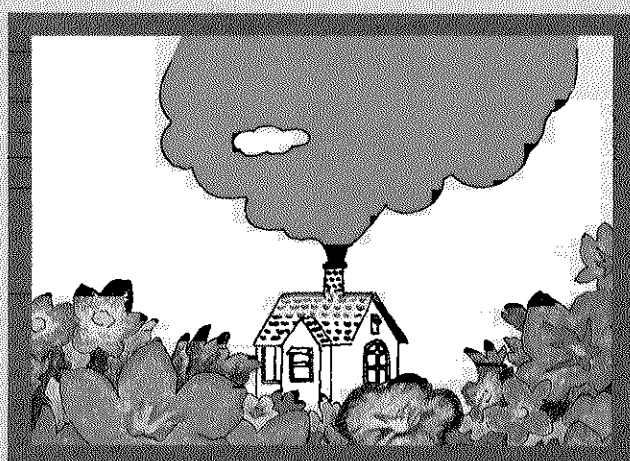


YAMAHA ELECTONE.

D-800

楽しさは正しい理解から



取扱説明書

このたびはヤマハエレクトーンをお買い上げいただきまして、
誠にありがとうございます。

ヤマハエレクトーン D-800 は、多年にわたる楽器づくりの
経験と技術に加え、時代の先端をいく電子テクノロジーを
採用することにより完成した最新型の高級電子オルガンです。
特に、ヤマハが独自に開発したデジタル技術から得られる
「生きた音」「豊かな響き」は、どなたにもご満足いただける
ものと存じます。

演奏にあたりましては、その多彩な機能を存分にお楽しみ
いただくため、あらかじめ本書をご一読くださいますよう
お願いいたします。

目次

●機能説明 PART I / エレクトーンを楽しむために、 これだけはマスターしましょう。——	1
●機能説明 PART II / さらに詳しく知るために。——	22
■さあ、弾いてみましょう——	38
■仕様と音域表——	42
■付属端子と音のエチケットについて——	43
■エレクトーン教室のご案内——	44
■長くお楽しみいただくために——	45
■このような現象は故障ではありません——	46
■サービスと保証について——	48
■エレクトーン豆辞典——	50

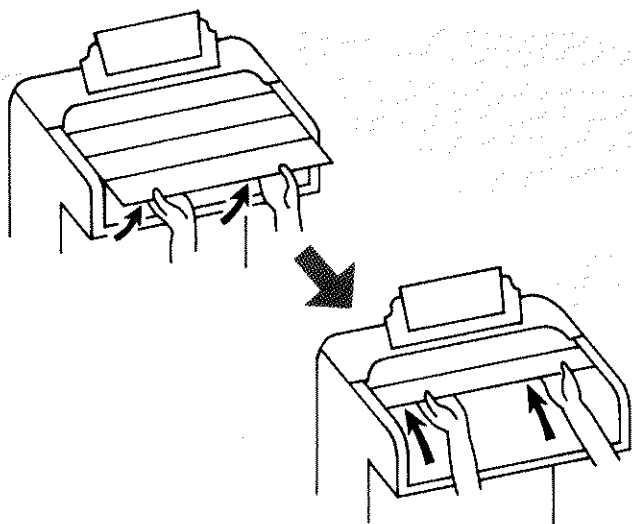
エレクトーンを 楽しむために、 これだけは マスターしましょう。

ここからのページでは、このエレクトーンがもっている多彩な音色をはじめとする、数々の機能を説明していきます。

PART Iでは、各部の名称、音のだしかたから、各機能の基本的な使いかたまでをまとめています。エレクトーンは初めてというかたは、このPART Iを読むだけで、エレクトーン演奏をお楽しみいただけることと思います。また、すでにご存じのかたも、このPART Iをご理解いただいた上で、PART IIにお進みください。

それでは、本書を講面台に置き、実際に音をだしながらごらんになってください。

★スライド蓋は、手前を少し持ち上げ、奥にすべらせて開けます。両手でしっかりつかみ、開ける途中で手を離さないでください。



1

2~3ページ

まず音をだしてみよう

2

4~5ページ

音色おんしよくをつくってみよう

3

6~11ページ

音を変化させてみよう

4

12~15ページ

オートリズム

5

16~17ページ

オートベース/コード

6

18~19ページ

オートアルペジオ

7

20~21ページ

各部の名称と操作方法

オートベース/コード(18,35ページ)

リズムシーケンスプログラマー(32ページ)

スペシャルプリセット(8,24ページ)

ブリリアンス(12ページ)

上鍵盤トーンレバー(6,23ページ)

アタックレンジス(12ページ)

カスタムボイス(9,24ページ)

ソロ鍵盤関係(10,26ページ)

オートリズム(16,31ページ)

トレモロ(13,28ページ)

マニュアルバランス(7ページ)

●レバーやボタンなどの
操作のしかた

シンフォニックコーラス(13,28ページ)

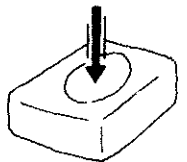
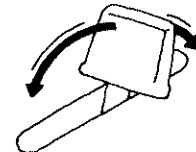
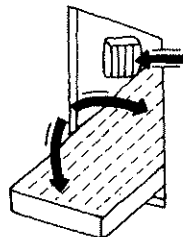
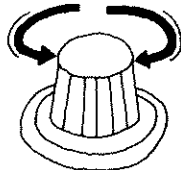
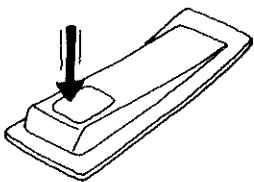
電源スイッチ

つまみ

エクスプレッションペダルと
フットスイッチ

レバー

ボタン



- ビブラート (12, 28ページ)
- 下鍵盤トーンレバー (7, 23ページ)
- プリセットアンサンブル (8, 25ページ)
- オートアルペジオ (20, 37ページ)
- ペダル鍵盤トーンレバー (7, 23ページ)
- マスターボリューム
- リズムックコード (18, 35ページ)



電源スイッチ

リバーブ (15ページ)

フットスイッチタブレット (15, 29ページ)

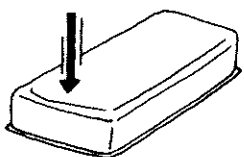
カブラー (27ページ)

アッパーフルートパーカッションディケイ (15, 30ページ)

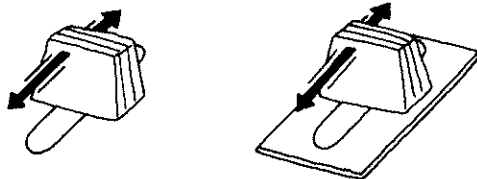
レスポンス (14, 30ページ)

サステイン (14, 30ページ)

タブレット



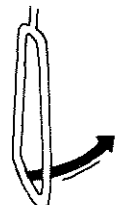
スライドレバー



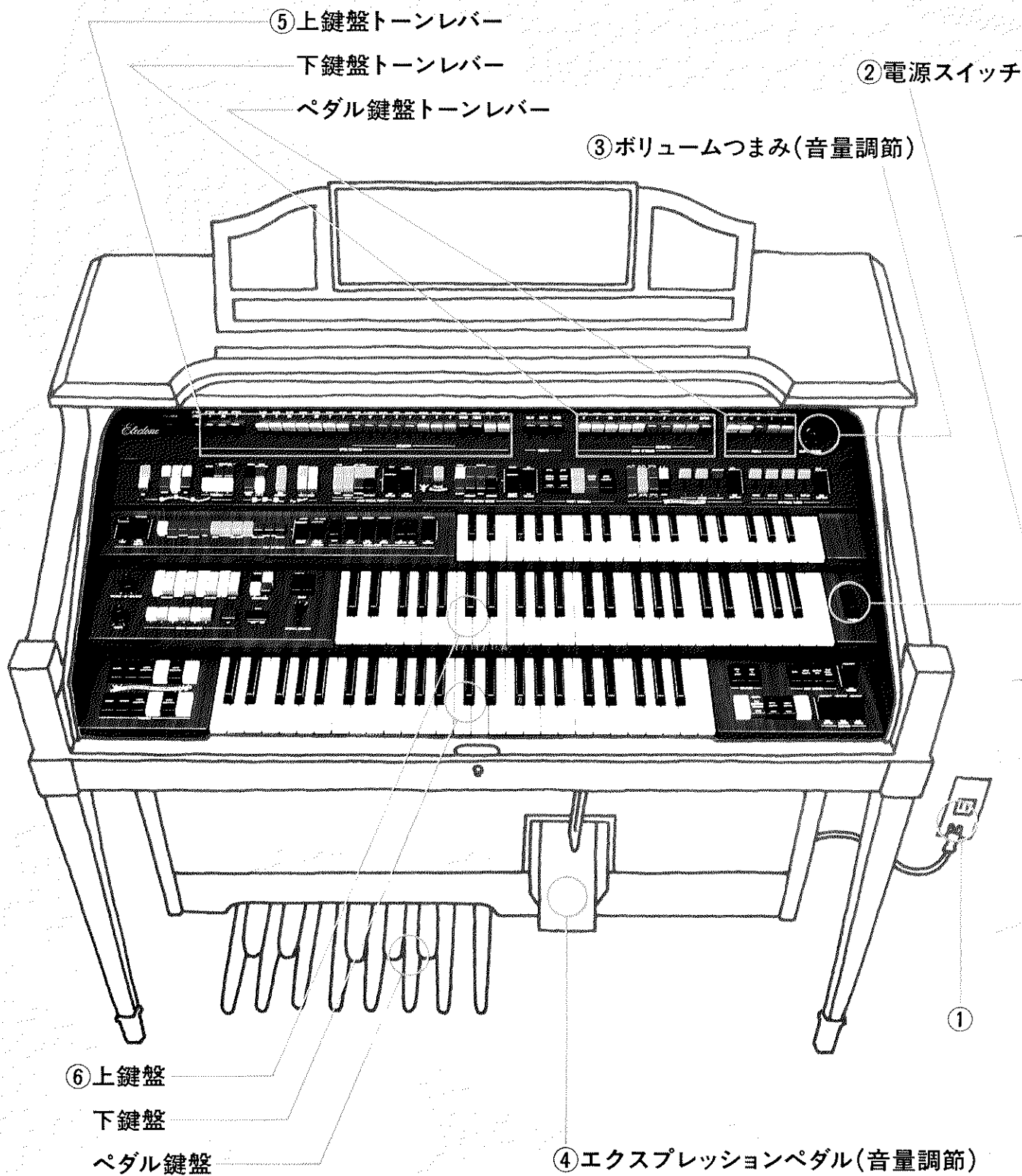
マニュアルバランスレバー



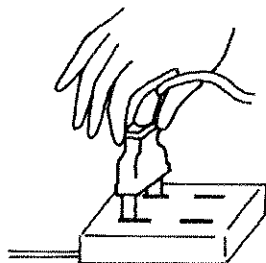
ニーレバー



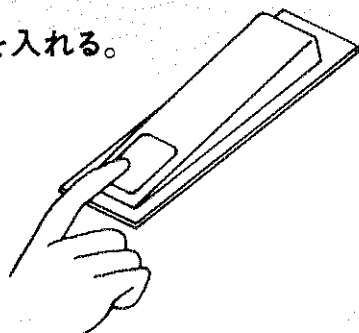
まず音をだしてみよう



① 電源コードをコンセントに差しこむ。

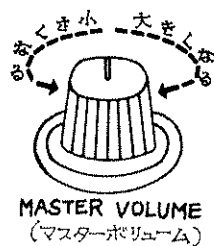


② 電源スイッチを入れる。



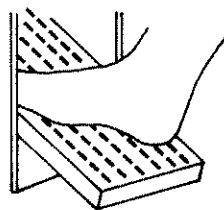
③ ボリュームつまみをセットする。

これは全体の音量を調節するつまみです。中央あたりにセットしておきましょう。



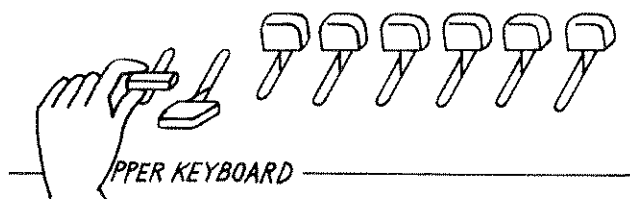
④ エクスプレッションペダルを踏みこむ。

これは演奏しながら自由に全体の音量を調節するペダルです。手前にもどっていると音が非常に小さくなります。



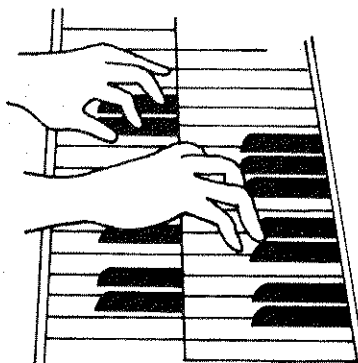
⑤ トーンレバーを下にさげる。

上鍵盤トーンレバー、下鍵盤トーンレバー、ペダル鍵盤トーンレバーを、それぞれいくつかさげてください。



⑥ 鍵盤を押さえる。

上鍵盤を右手、下鍵盤を左手で押さえます。ペダル鍵盤は左足で踏んでください。それぞれ音がでたことと思います。



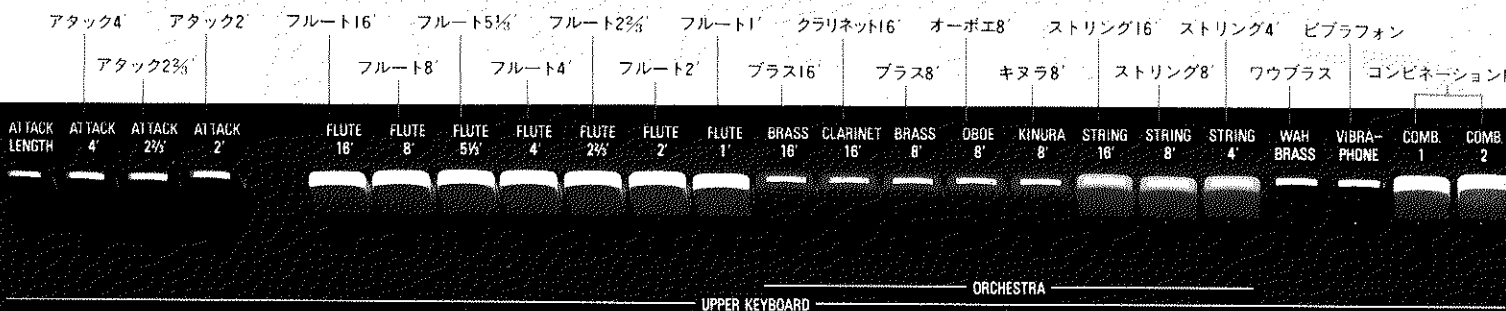
音が大きすぎる場合は。

- エクスプレッションペダルを少しずつもどして音量を調節してください。

音がでなかつたり、小さすぎる場合は。

- もう一度①～⑥を確認してください。
- 他のボタンやタブレットが押されていないか確かめてください。
- マニュアルバランスは中央あたりにセットしてください。

音色をつくってみましょう



UPPER KEYBOARD

ORCHESTRA

オーケストラ

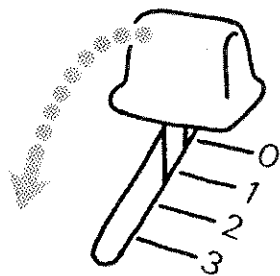
アップパーキーボード(上鍵盤トーンレバー)

●上鍵盤トーンレバー

レバーをさげるだけで、いろいろな楽器の音を選べます。上鍵盤を弾いて、ひとつひとつの音色を聴きくらべてください。

音量を3段階にセットできます。

音色を選ぶだけでなく、音量の調節もトーンレバーでできます。一番下が最大の音量です。これをクリックストップ式といいます。



何種類でも、自由に組み合わせることができます。

例えば、次のようにセットすると、ジャズオルガンのような音が得られます。

アタック2 1/2' (2) フルート16' (3)

フルート8' (3) フルート5 1/2' (3)

※()内の数字はクリックストップの位置を示します。

★アップパープリセット

上鍵盤トーンレバーの右端3つは、アップパープリセットといって、単独で使う音色レバーです。他のトーンレバーと同時にセットすると、アップパープリセットが優先します。また、クリックストップ式にはなっていないから、レバーが一番下までさげてください。

上鍵盤トーンレバー

アタック4'、2 1/2'、2'

立ちあがり早く、鍵盤を押さえ続けても途中で消えていく減衰音です。主に他のトーンレバーと組み合わせる使用音色で、歯切れのよい感じの音がつくれます。

フルート16'、8'、5 1/2'、4'、2 1/2'、2'、1'

エレクトーンの最も基本的な音色で、いろいろな音づくりの中心になります。音質は柔らかく澄んでいて、7つの音程がちがうレバーがそろっています。

ブラス16'、8'

明るい金管楽器の音色です。

クラリネット16'

落ちついた丸みのある音色です。

オーボエ8'

細くやわらかい音色が得られます。

キヌラ8'

他の音色に華やかさを加えます。

ストリング16'、8'、4'

弦楽器の音色です。弦楽器特有の豊かでうるおいのある感じが得られます。

ワウブラス

ブラスの音色にワウワウ効果をもたせたもので、他の音色と組み合わせると特殊な効果が得られます。

ビブラフォン

共鳴筒のついた鉄琴のことで、透明感のある減衰音に、長い余韻がついています。

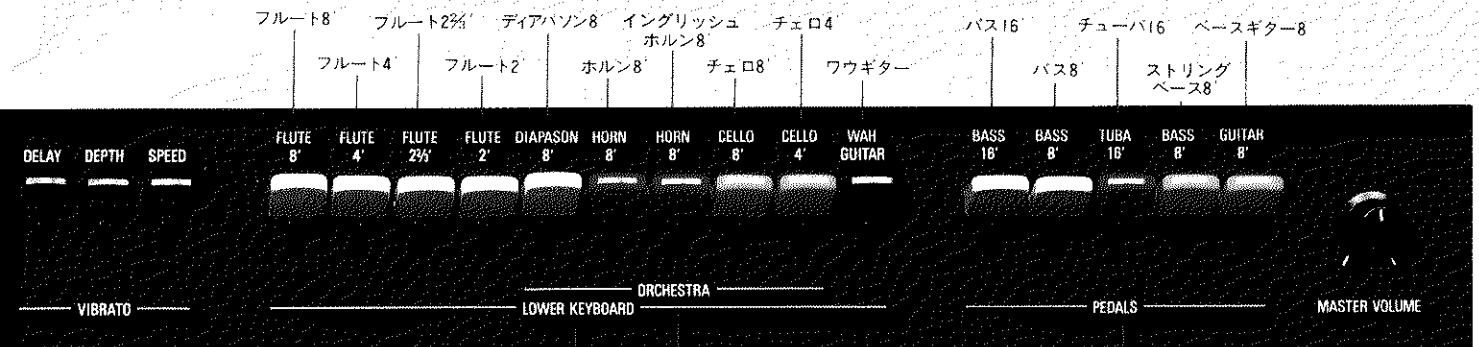
コンビネーション1

さまざまな音色があらかじめセットされていて、めりはりのきいたジャズトーンが得られます。

コンビネーション2

パイプオルガンのような重厚で、響きわたるようなシアターサウンドが得られます。

※音色名のあとについている数字と記号(例えば8'＝8フィート)は、その音色の音程を表わします。(詳しくは23ページ参照。)



ローキーボード(下鍵盤トーンレバー)
オーケストラ

ペダルス(ペダル鍵盤トーンレバー)

●下鍵盤トーンレバー

操作方法などは上鍵盤トーンレバーと同じです。

好きなレバーをいくつか下にさげると、選んだ音色を下鍵盤から出すことができます。

下鍵盤トーンレバー	
フルート8'、4'、2 1/2'、2'	上鍵盤のフルートと同じ音色で、音程のちがう4つのレバーがあります。
ディアパソン8'	パイプオルガンを思わせる重厚な音色です。
ホルン8'	ブラスの音色を少し甘くした感じで、クセのない豊かな音です。
イングリッシュホルン8'	オーボエの音色をやや落ちつかせた感じで、素朴な音が得られます。
チェロ8'、4'	ストリングの音色をやわらかくした感じで、なめらかで自然な音色です。
ワウギター	ギターの音にワウワウ効果をもたせた、おもしろい感じがする音色です。リズムを鳴らしている時はリズムにのってきざまれます。

★マニュアルバランス

上鍵盤のすぐ左にあるマニュアルバランスは、上鍵盤の音量と下鍵盤の音量とのバランスを調節する回転式レバーです。

U.のほうへ回転……上鍵盤の音が大きくなる。

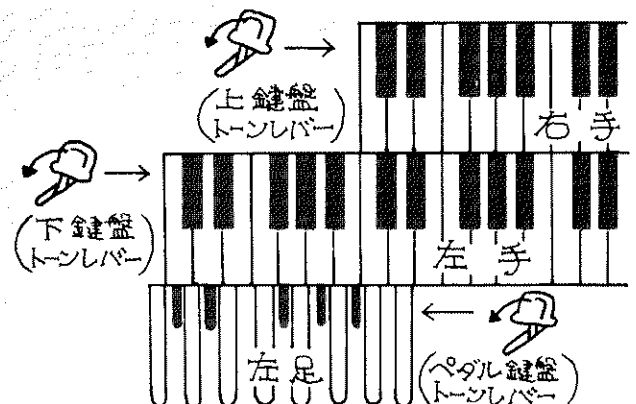
L.のほうへ回転……下鍵盤の音が大きくなる。

●ペダル鍵盤トーンレバー

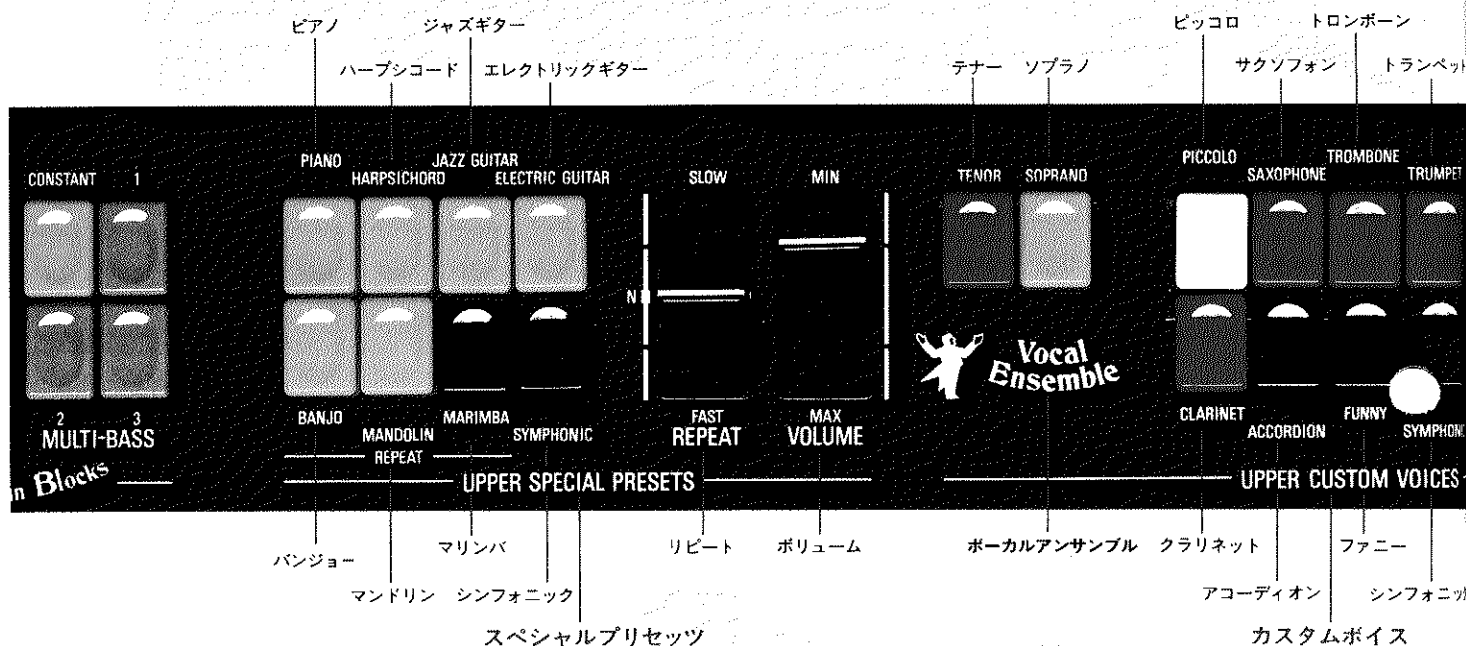
操作方法などは上・下鍵盤トーンレバーと同じです。

ペダル(足)鍵盤はベースの演奏を受けもちますから、コントラバスやベースギターといった低音楽器の音色レバーが用意されています。

ペダル鍵盤トーンレバー	
バス16'、8'	コントラバスの重厚な音色です。特にバス16'は体に感じるような低音の響きが得られます。
チューバ16'	バスにくらべ、奥ゆきとつやが感じられる音色です。
ストリングベース8'	指で弾いたときのコントラバスの音色が得られます。
ベースギター8'	ベースギター特有のアタック効果が組みこまれた減衰音です。歯切れのよいベース音を得られます。



音色をつくってみましょう



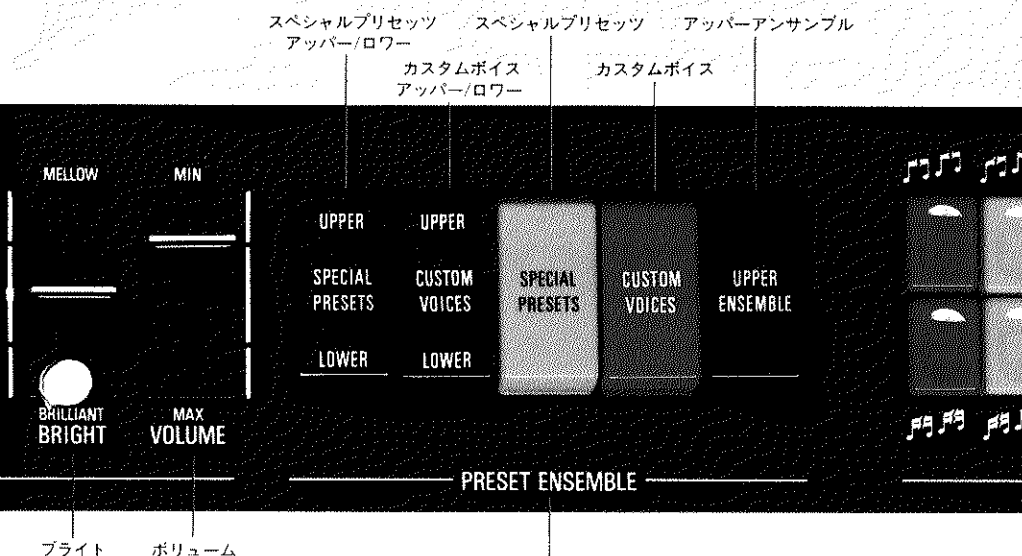
●スペシャルプリセット

自然楽器のもっている独特の音質や響きが、あらかじめセットされている音色機能です。

- ①7つのセレクトボタンから、お好きな音色をひとつ選んで押します。
 - ②黄色のダブルレットを入れます。
右側にプリセットアンサンブルの5つのタブレットが並んでいます。このうち真中の黄色いタブレットがスペシャルプリセットのスイッチになっています。
 - ③ボリュームのスライドレバーを手前に引きます。
このスライドレバーはスペシャルプリセット専用の音量調節レバーです。
 - ④そして上鍵盤を押さえると、選んだ音色が単独でできます。
- 上鍵盤トーンレバー音色とアンサンブルさせたり、下鍵盤に移すこともできます。
(25ページ参照)

スペシャルプリセットの音色

ピアノ	ピアノに近い音質で、音の消えかたも実際のピアノのように、余韻がついた自然な減衰をします。
ハープシコード	ピアノのもとになった鍵盤楽器のことで、クラシカルで素朴な響きが得られます。
ジャズギター	ジャズでよく使われるギターの音をイメージしてつくったもので、やわらかい感じのする音色です。
エレクトリックギター	ロックなどの中心楽器、電気ギターの音色です。ビートのきいた、やわらかたい音質です。
バンジョー	カンタリーウェスタンに使われるバンジョーの音色で、音がこまかくくり返される断続音です。
マンドリン	マンドリンのトレモロ奏法そのままに、独特の断続音が得られます。
マリンバ	共鳴筒のついた木琴のことで、まろやかなやわらかい感じの断続音が得られます。
シンフォニック	他のセレクトボタンと一緒に使うもので、広がりのある響きになります。 (24ページ参照)



プリセットアンサンブル

●カスタムボイス

カスタムボイスは、音量、音色が時間の経過にしたがって微妙に変化し、より実際の楽器音に近い表現ができます。

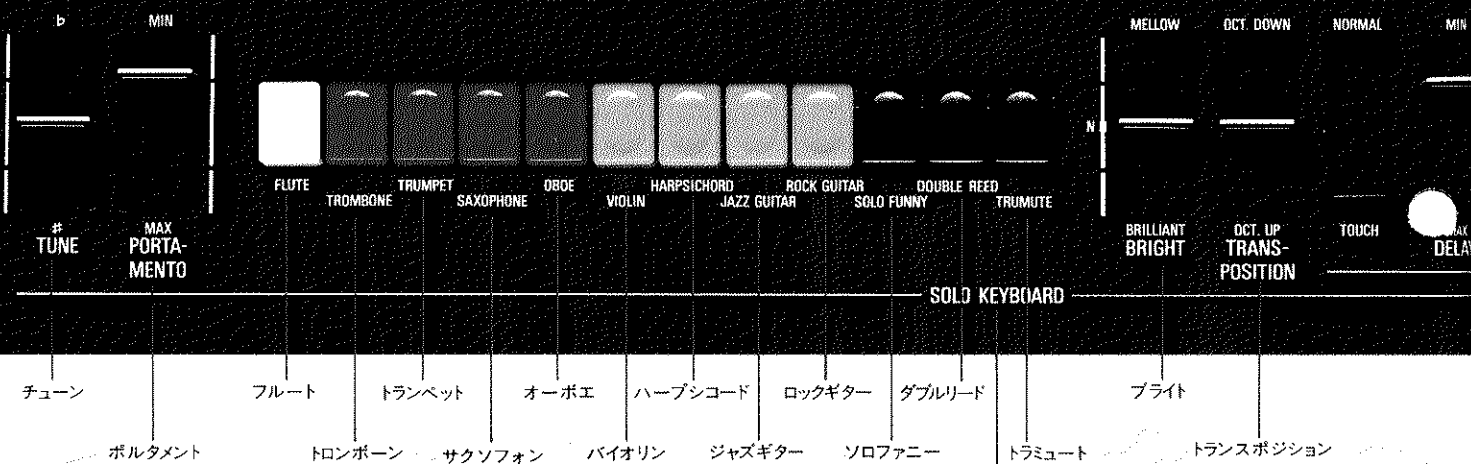
- ① 7つのセレクトボタン、および2つのボーカルアンサンブルのボタンから、好きな音色をひとつ選んで押します。
- ② 赤のタブレットを入れます。
プリセットアンサンブルの5つのタブレットのうち、右から2番目の赤いタブレットがカスタムボイスのスイッチになっています。
- ③ ボリュームのスライドレバーを手前に引きます。
カスタムボイス専用の音量調節レバーです。
- ④ そして上鍵盤を押さえると、選んだ音色が単独でできます。

● 上鍵盤トーンレバー音色とアンサンブルさせたり、下鍵盤に移すこともできます。
(25ページ参照)

カスタムボイスの音色

ピッコロ	フルートよりひとまわり小さい楽器です。高く明るい音色が得られます。
サクソフォン	ジャズでよく使われる管楽器で、豊かでしっとりとした音質です。
トロンボーン	丸みのある金管楽器特有の音色です。ゆるやかに響きわたる感じがします。
トランペット	トロンボーンより鋭い感じで、つやがあり、音のとおりがよい音色です。
クラリネット	木管楽器独特のまろやかさがある音色で、深みを感じさせる響きです。
アコーディオン	音が微妙に変化し、アコーディオンの素朴な音に近い音色が得られます。
ファニー	「おもしろい」という意味の言葉で、ワウワウ効果のきいた、シンセサイザー的な音色です。
ボーカルアンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> テナー 広く響きわたる男声コーラスをイメージしてつくった音色です。 ソプラノ 女声コーラスをイメージしてつくった、荘厳な響きをもった音色です。
シンフォニック	他のセレクトボタンと一緒に使うもので、広がりのある響きになります。 (24ページ参照)

音色をつくってみましょう



ソロキーボード(ソロ鍵盤の音色と効果)

●ソロ鍵盤

上鍵盤の上段にある少し小さな鍵盤は、ソロ鍵盤といって、主にメロディーを弾くために使います。このソロ鍵盤はシンセサイザー方式を採用していますから、その音色は実際の楽器がもっている特徴により忠実なものとなっています。さらに専用の効果機能で変化に富んだ微妙な表現が可能です。

- ①12のセレクトボタンから、お好きな音色をひとつ選んで押します。
- ②ボリュームのスライドレバーを手前に引きます。
- ③そしてソロ鍵盤を押さえると、選んだ音色がでてきます。

ソロ鍵盤の音は単音で得られます。2音以上同時に鍵盤を押さえると、高音が優先されます。

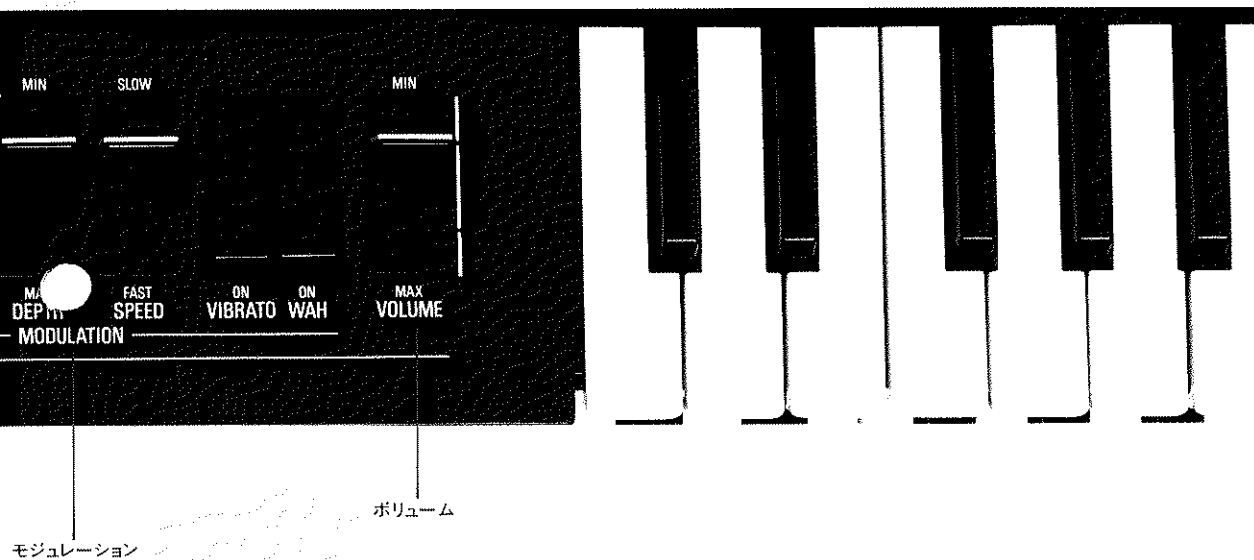
ソロ鍵盤の音色

フルート・トロンボーン・トランペット・サクソフォン・
オーボエ・バイオリン・ハーブシコード・ジャズギター・
ロックギター

ソロファニー(ワウワウ効果をもったシンセサイザー特有の音色です)

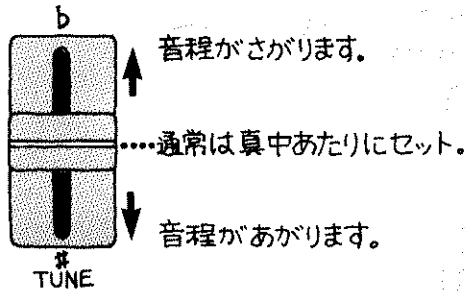
ダブルリード(2枚リードの木管楽器の音色で、バグパイブによく似た音が得られます)

トラミュート(弱音器をつけたトランペットの音色です)



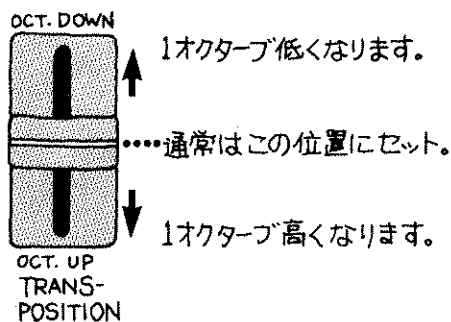
★チューン

このスライドレバーでソロ鍵盤の音程を微妙に調節することができます。演奏の前に、他の鍵盤の音程に合わせてください。



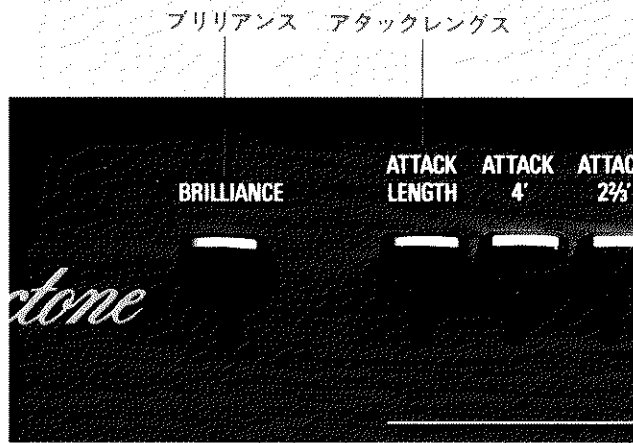
★トランスポジション

このスライドレバーを使えば、ソロ鍵盤の音程を1オクターブ高くしたり、低くしたりできます。



●他の効果機能については、26、27ページ参照。

音を変化させてみましょう

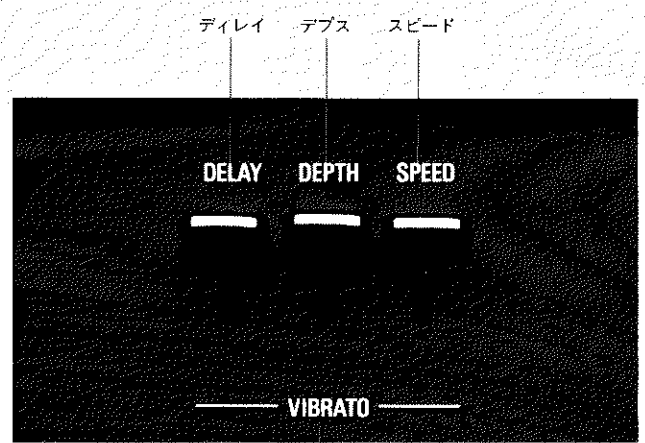
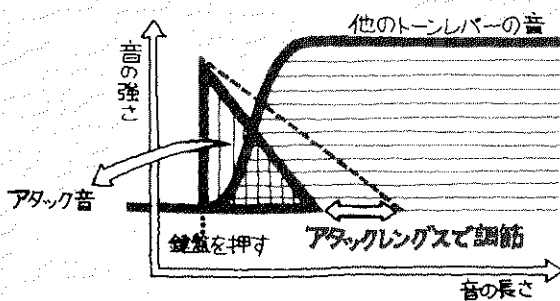


●ブリリアンス

音を明るく輝くような感じにする効果で、レバーを下にさげるほど、効果が大きくなります。特に、リード楽器(クラリネット、オーボエなど)や弦楽器(ストリング、チェロなど)の音色にかけると効果的です。上鍵盤と下鍵盤の音にかけることができます。

●アタックレングス

上鍵盤トーンレバーのアタック4'、2%、2'の長さを調節するレバーです。下にセットするほどアタック音の減衰時間(消えるまでの時間)が長くなります。



ビブラート

●ビブラート

音の高さを小さく上下させ、音にうるおいをあたえる効果で、上・下鍵盤の音にかけることができます。各レバーの役割は次のとおりです。

(詳しくは28ページ参照)

①ディレイレバー

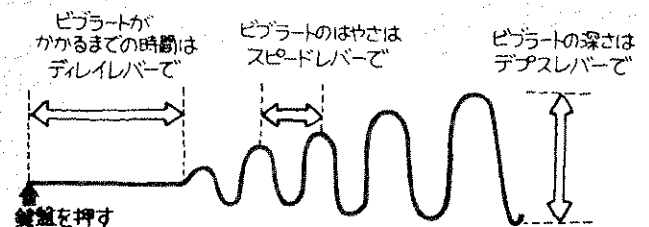
鍵盤を押してからしばらくしてビブラートをかけるレバーです。下にさげるほどかかるまでの時間が長くなります。

②デプスレバー

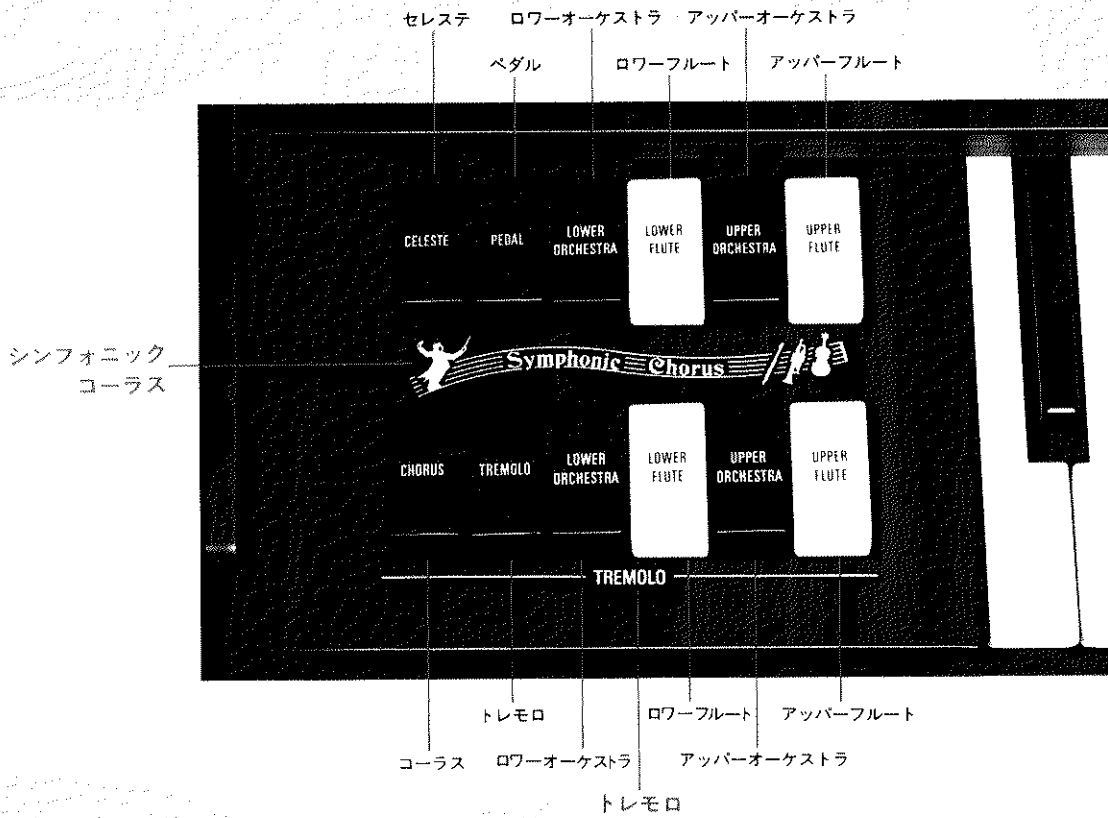
このレバーを入れるとビブラートがかかります。下にさげるほど音の高さの変化、つまりビブラートの深さが大きくなります。

③スピードレバー

ビブラートの速さを調節するレバーで、下にさげるほど速くなります。



※ディレイレバー、スピードレバーを入れただけではビブラートはかかりません。



●シンフォニックコーラス

トーンレバーの音色に立体的な響きをあたえ、厚みと広がりをもたせる効果です。下の表のように、シンフォニックコーラスをかける音色をタブレットで選択することができます。

タブレット	シンフォニックコーラスがかかる音色
アッパーフルート(白)	上鍵盤のフルート音色
アッパーオーケストラ(黒)	上鍵盤のオーケストラ音色
ローフルート(白)	下鍵盤のフルート音色
ローオーケストラ(黒)	下鍵盤のオーケストラ音色
ペダル(黒)	ペダル鍵盤の音色

★セレステ(黒)

上の5つのタブレットのどれかを入れている時、このタブレットを一緒に入ると、シンフォニックコーラスの響きがゆっくなりとなり、落ちついた深みのある感じをだすことができます。

●トレモロ

音にうねりをあたえるエレクトーン特有の効果で、専用スピーカーの前にあるドラムを回転させることで得られます。

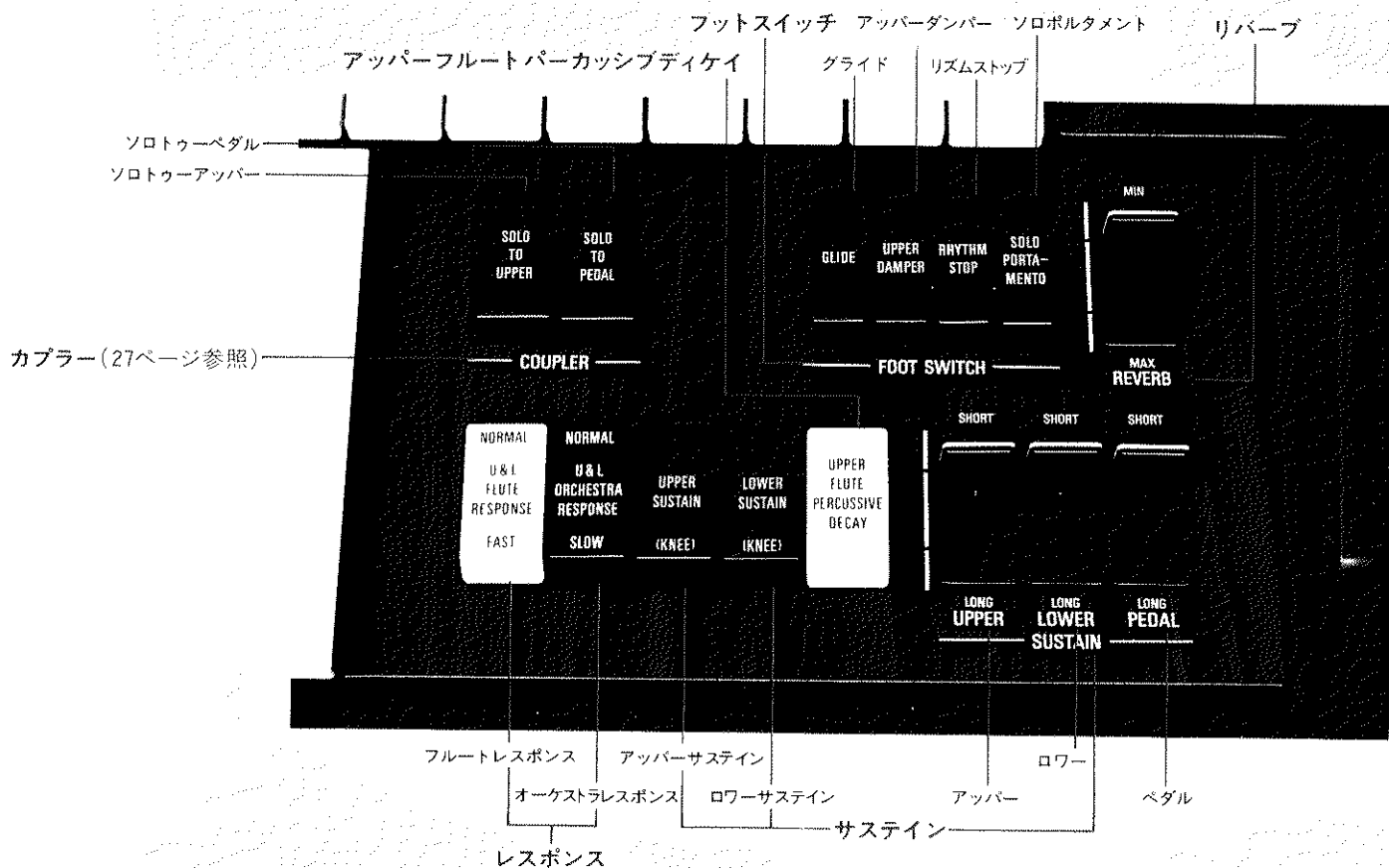
まず、次のタブレットのどちらかを入れてください。

タブレット	役割
トレモロ(黒)	速いトレモロのスイッチ
コーラス(黒)	ゆっくりしたトレモロのスイッチ

次に、トレモロをかける音色を、下の表のタブレットで選択します。

タブレット	トレモロがかかる音色
アッパーフルート(白)	上鍵盤のフルート音色
アッパーオーケストラ(黒)	上鍵盤のオーケストラ音色
ローフルート(白)	下鍵盤のフルート音色
ローオーケストラ(黒)	下鍵盤のオーケストラ音色

音を変化させてみましょう



● レスポンス

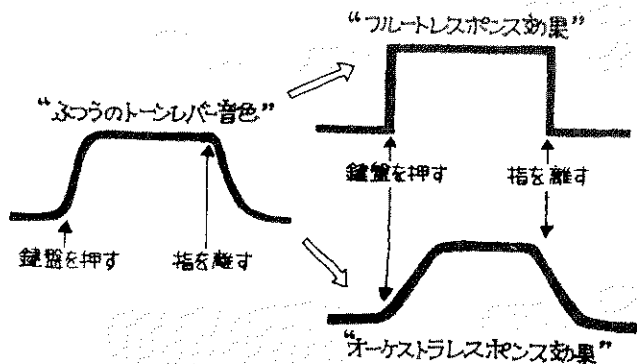
トーンレバー音色の立ち上がりと消えかたを早くしたり、おそくしたりする効果です。

U&Lフルートレスポンス

上・下鍵盤のフルート音色の立ち上がりと消えかたを鋭くし、歯切れのよい音にします。

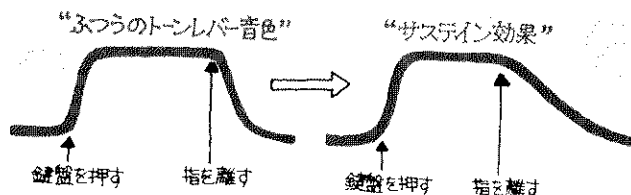
U&Lオーケストラレスポンス

上・下鍵盤のオーケストラ音色の立ち上がりと消えかたをゆるやかにし、やわらかな音にします。



● サステイン

エレクトーンは、鍵盤から指を離すと音がすぐ消えてしまいますが、このサステインを使えばピアノのように音に余韻をつけることができます。



アッパーサステイン

このタブレットを入れると、上鍵盤の音にサステインがかかります。

★アッパーのスライドレバーでサステインの長さを調節してください。手前に引くほど長い余韻になります。



ロワーサステイン

このタブレットを入れると、下鍵盤の音にサステインがかかります。

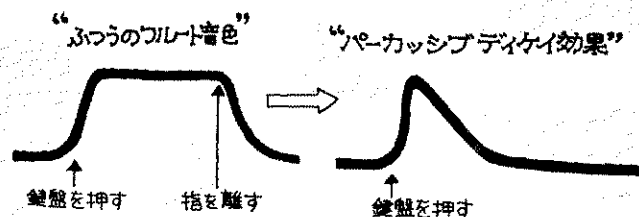
★ロワーのライドレバーでサステインの長さを調節してください。手前に引くほど長い余韻になります。

ペダルサステイン

ペダル鍵盤の音のサステインは、ペダルのライドレバーを手前に引くだけでかかります。

●アッパーフルート パーカッシブディケイ

上鍵盤のフルート音色をアタック音のような減衰音にする効果です。フルート音色は普通、鍵盤を押さえている間、持続して音がでますが、このタブレットを入れると、途中で自然に消えていきます。

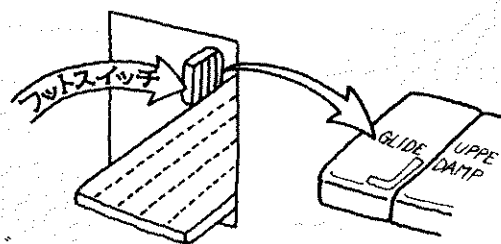


●リバーブ

音に残響をつける効果で、大ホールで演奏しているような響きが得られます。リバーブのライドレバーを手前に引くほど残響が長くなります。効果がかけられるのは上・下鍵盤とソロ鍵盤の音です。

●フットスイッチタブレット

フットスイッチの働きを決めるタブレットです。



グライド

このタブレットを入れると、フットスイッチを押している間、エレクトーンの音程を半音さげることができます。

アッパーダンパー

このタブレットを入れると、フットスイッチを押している間、上鍵盤の音にサステイン効果をかけることができます。

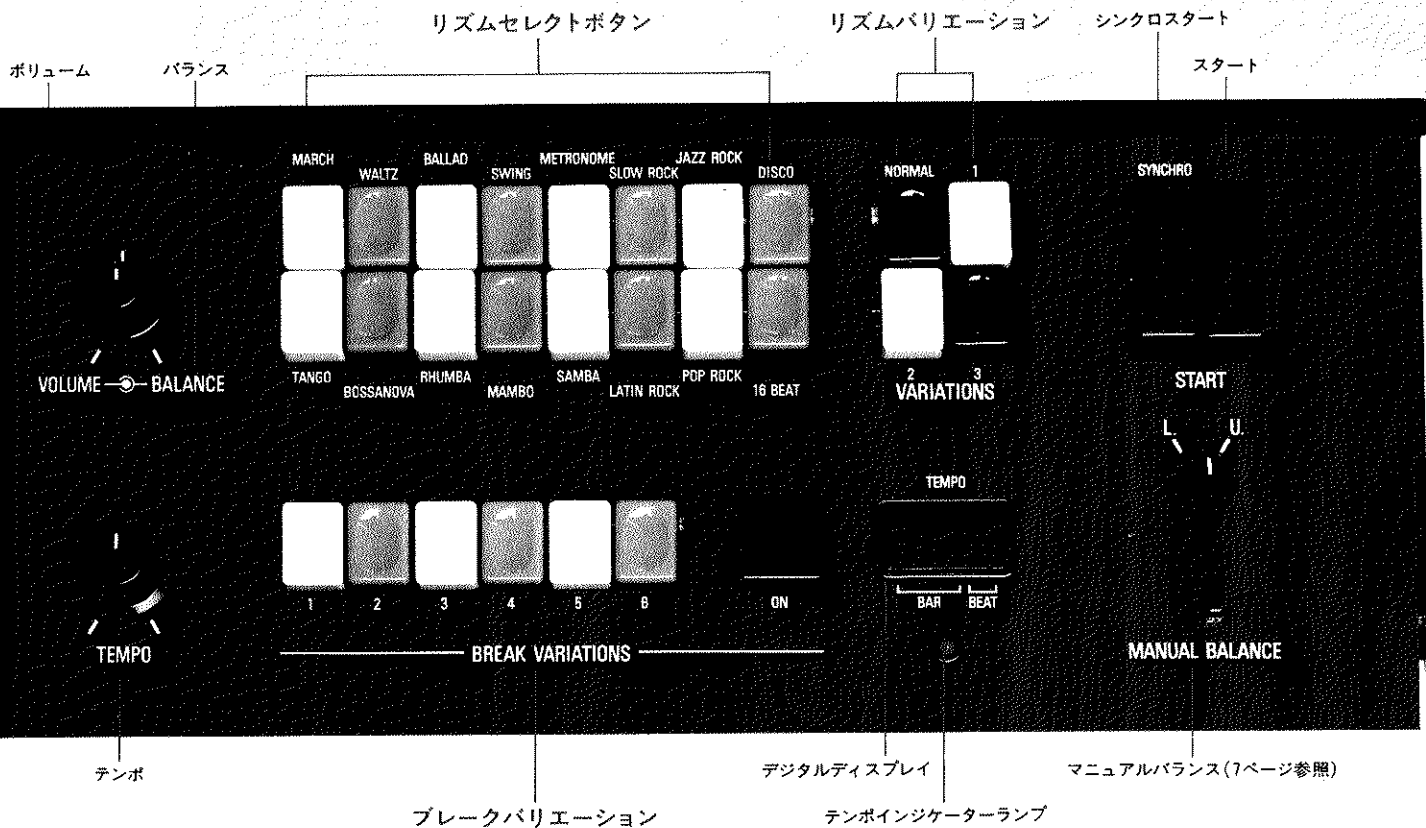
リズムストップ

このタブレットを入れ、フットスイッチを一度押すと、オートリズムが止まります。もう一度押すとスタートします。

ソロポルタメント

このタブレットを入れると、フットスイッチを押している間、ソロ鍵盤でセットしているポルタメント効果をかけることができます。

オートリズム 自動伴奏



シンバル、ドラム、ボンゴといった打楽器音で歯切れのよいリズムを自動的にきざむ機能です。リズムのパターンには、基本の16リズムとそのバリエーション、6つの変則リズムなどがあります。

●基本的なオートリズムの鳴らしかた

- ①リズムセレクトボタンを押します。
16のボタンの中から、好きなリズムを選んで押しください。
- ②スタートスイッチを入れます。
2つの黒いスタートタブレットのうち、右側を入れてください。選んだリズムが鳴りはじめます。
- ③速さ、音量、バランスを調節します。(31ページ参照)

★シンクロスタート

右側のスタートタブレットのかわりに、左側のシンクロのタブレットを入れると、下鍵盤かペダル鍵盤を押すまでリズムは鳴りません。鍵盤を押さえると同時にリズムが第1拍目からスタートします。

★デジタルディスプレイ

リズムの速さや小節数、拍数を数字で表示します。

- リズムが止まっている時 / セットしているリズムのテンポを1分間に打つ4分音符の数で表示します。
- リズムが鳴っている時 / 左2ケタがスタートからの小節数、右1ケタが拍数を表示します。

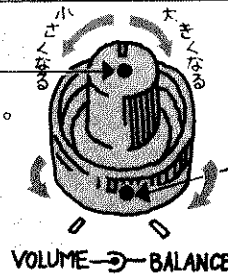
テンポ

リズムの速さを調節。



ボリューム

リズムの音量を調節。

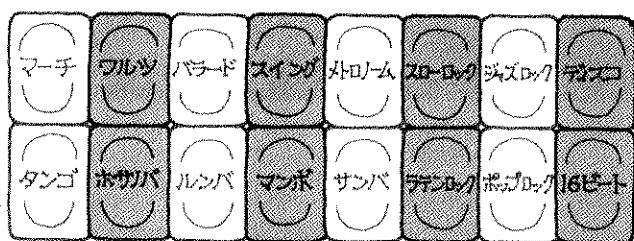


バランス

リズムの高・低音のバランスを調節。

VOLUME → BALANCE

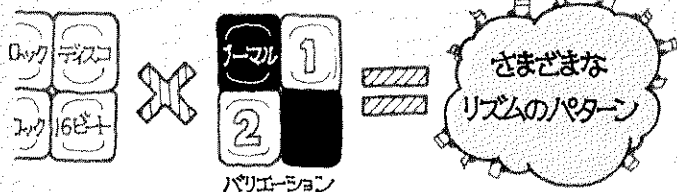
●リズムセレクトボタン



以上が基本の16リズムですが、2つ以上のボタンを同時に押せば、それらが組み合わせられ、より複雑なリズムが得られます。

●リズムバリエーション

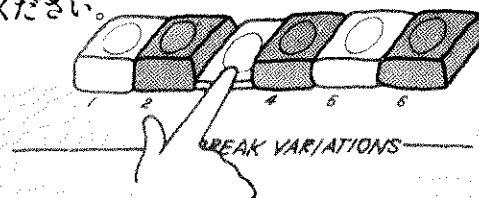
セレクトボタンを押した上で、このボタンを押せば、選んだリズムを変化させることができます。バリエーションは、基本の16リズムに対して、1、2、3の種類あり、それぞれちがったパターンが楽しめます。さらに、バリエーション同士でも組み合わせ可能です。ノーマルのボタンを押すと、バリエーションから基本リズムにもどります。



●ブレイクバリエーション

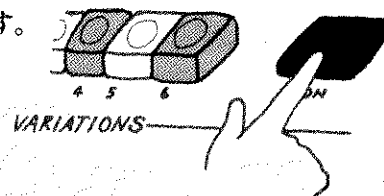
リズムにアクセントをつける変則リズムです。リズムが鳴っている時、緑のボタンを押すと、その瞬間からブレイクバリエーションに切りかわります。

- ①16のリズムから、好きなリズムを選び、スタートさせておきます。
- ②セレクトボタンを押します。
1から6まで並んでいる、白かグレーのボタンのどれかを押してください。



- ③ONのボタンを押します。

変則リズムを入れたいところきたら、緑色のONのボタンを押してください。ボタンが点灯し、それまで鳴っていたリズムから、ブレイクバリエーションに変わります。



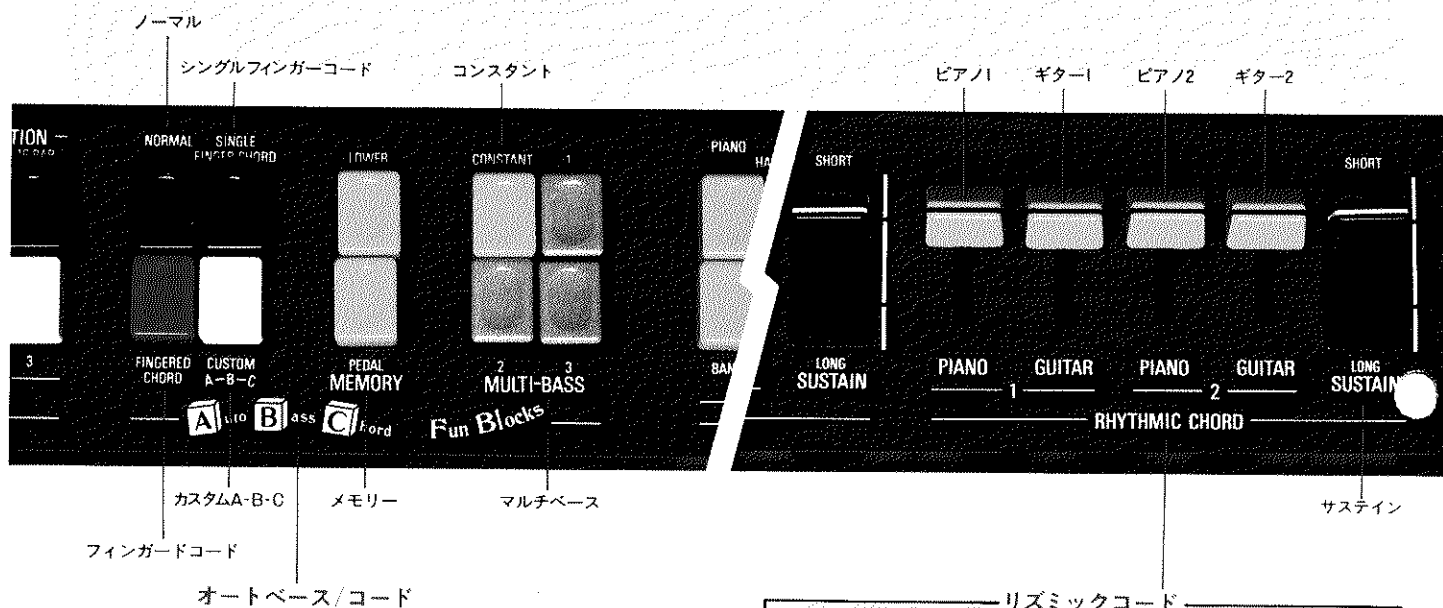
- ④ONのボタンから指を離します。

指を離すと、その小節の終わりまでブレイクバリエーションが続き、次の小節は元のリズムにもどります。

★イントロ

曲を演奏する前にイントロを自動的に入れることもできます。セレクトボタンは押さずに、ONのボタンを押し、リズムをスタートさせてください。4分音符のリズムでイントロが1小節入ってきます。

オートベース/コード 自動伴奏



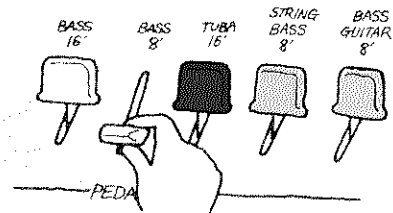
リズムコード
 オートベース/コードを使い、下鍵盤で伴奏する時、自動的にリズムをきざむのがこの音色です。(リズムコードはオートリズムに連動しています)。4つのレバーを組み合わせることで多彩な自動伴奏が得られます。

左手と左足のむずかしい和音伴奏が、下鍵盤を押さえるだけで自動的に得られる便利な機能です。この機能を使えば、下鍵盤とペダル鍵盤の音が和音になり、リズムにのってきざまれます。

●指1本で伴奏をつけるには

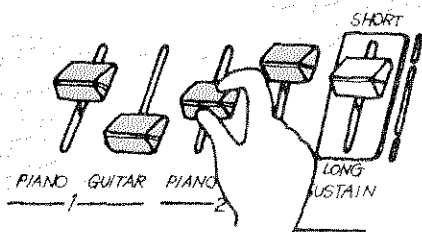
- ①オートリズムをセットします。
 リズムセレクトボタンを押し、リズムスタートスイッチはシンクロを入れておきます。
- ②リズムコードをセットします。
 オートベース/コード用の下鍵盤の音色でピアノ1・ギター1・ピアノ2・ギター2の4つがあり、下にさげるほど音量が大きくなります。この4つのレバーはいくつでも組み合わせられます。

- ③ペダル鍵盤トーンレバーをセットします。

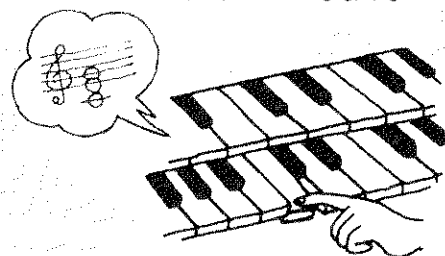


- ④緑のシングルフィンガーコードのボタンを押します。
- ⑤下鍵盤のひとつを押します。

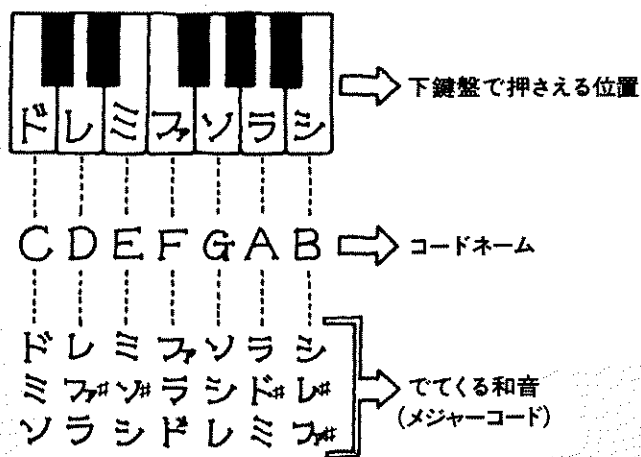
例えばドを押すと、リズムコードの音色がド、ミ、ソの和音になり、オートリズムにのってきざまれます。さらにペダル鍵盤の音色もベース伴奏として自動的に加わり、楽しいリズム伴奏がでできます。



また、下鍵盤トーンレバーの音色はリズムはきざみませんが、和音の持続音としてリズム伴奏に厚みを加えます。お好みによってセットしてください。



★下鍵盤と伴奏和音の関係



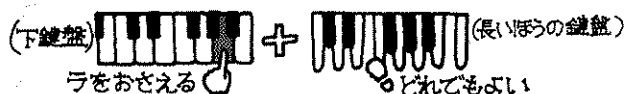
★セブンスコード、マイナーコードの lisäksi

例えば、G7、Am というようなコード名が楽譜に書かれている時は、ペダル鍵盤を一緒に踏めば、その和音をたすことができます。

例えば

A のとき——下鍵盤でラを押さえます。

A7 のとき——下鍵盤でラを押さえ、ペダル鍵盤の茶色の鍵盤を踏みます。



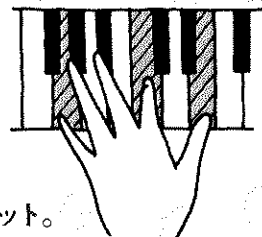
Am のとき——下鍵盤でラを押さえ、ペダル鍵盤の黒鍵を踏みます。



Am7 のとき——下鍵盤でラを押さえ、ペダル鍵盤の茶色と黒の鍵盤を同時に踏みます。

(踏むペダル鍵盤はどの位置でもかまいません。)

●押さえたとおりの和音で伴奏をつけるには



- ①オートリズムをセット。
- ②リズムコードをセット。
- ③ペダル鍵盤トーンレバーをセット。
- ④赤のフィンガードコードのボタンを押します。
- ⑤下鍵盤で和音を押します。

押さえたとおりの和音でリズムコードの音がリズム伴奏をきざみ、さらにベース音も自動的に加わります。

●メモリーボタン

下鍵盤から指を離しても、自動伴奏の音がそのまま鳴り続ける機能です。これを使うと伴奏のコードが変わるときだけ、鍵盤を押さなおせばよいわけです。

- ①ロワー、ペダル両方入れたとき。

下鍵盤、ペダル鍵盤両方の音の自動伴奏が、指を離してもリズムとともに鳴り続けます。

- ②どちらか片方を入れたとき。

入れている方の鍵盤の音とリズムの自動伴奏は指を離しても鳴り続けます。

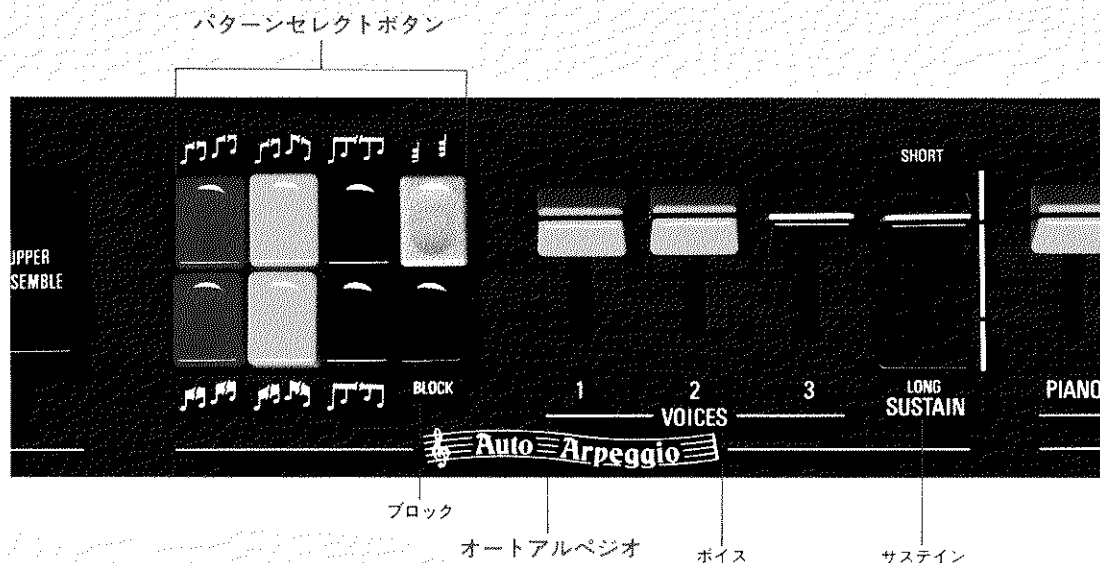
●マルチベース

ベース音(ペダル鍵盤の音)の自動伴奏パターンを変化させる機能です。1、2、3の3種類のパターンがあり、2つまたは3つミックスすることもできます。どのボタンも押していないときは、ベース音は基音のくり返しになります。

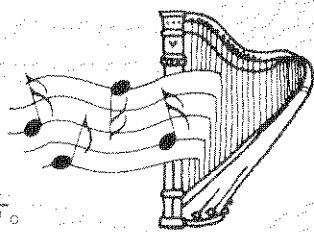
★オートベース/コードを使わないときはノーマルのボタンを押しておいてください。

★カスタムA-B-C、コンスタントのボタンは35、36ページを参照してください。

オートアルペジオ 自動伴奏



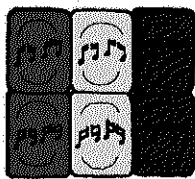


アルペジオとは、ハープのように和音を分散して連続的に奏でる演奏法のことです。エレクトーンでは、下鍵盤で押さえた音をもとに、このアルペジオが自動的に得られます。



●オートアルペジオの鳴らしかた

- ① オートリズムをセットします。
リズムセレクトボタンを押し、リズムスタートスイッチはシンクロのタブレットを入れておきます。
 - ② パターンセレクトボタンを押します。
7種類のアルペジオパターンがあります。好きなボタンを選んで押してください。
 - ③ ボイスのレバーをセットします。
アルペジオ音には、ボイス1、2、3の3つの音色があります。下にさげるほど音量が大きくなり、1、2、3を組み合わせることもできます。
 - ④ 下鍵盤を押さえます。
押さえた鍵盤の音をもとに、アルペジオが自動的にきざまれます。
- ★サステインのレバーを下にさげると、アルペジオ音にサステイン(余韻)効果がかけられます。

★パターンセレクトボタン

<p>赤・黄・緑のボタン</p> 	<p>アルペジオのパターンを選ぶボタンです。下鍵盤で押さえた音をもとに、8分音符や16分音符などで単音のアルペジオがきざまれます。</p>
<p>グレーのボタン</p> 	<p>パターンを選ぶボタンのひとつですが、下鍵盤を3音押さえると、それらが和音となってアルペジオをきざみます。</p>
<p>ブロック(黒)</p> 	<p>他のパターンセレクトボタンと組み合わせて使うボタンです。単音できざまれていたパターンが、3音構成の和音できざまれるようになります。</p>

●オートベース/コードと組み合わせて使えます

オートアルペジオを鳴らしている時、オートベース/コードも同時に使って、より楽しい自動伴奏を得ることができます。

シングルフィンガーコードを入れると。

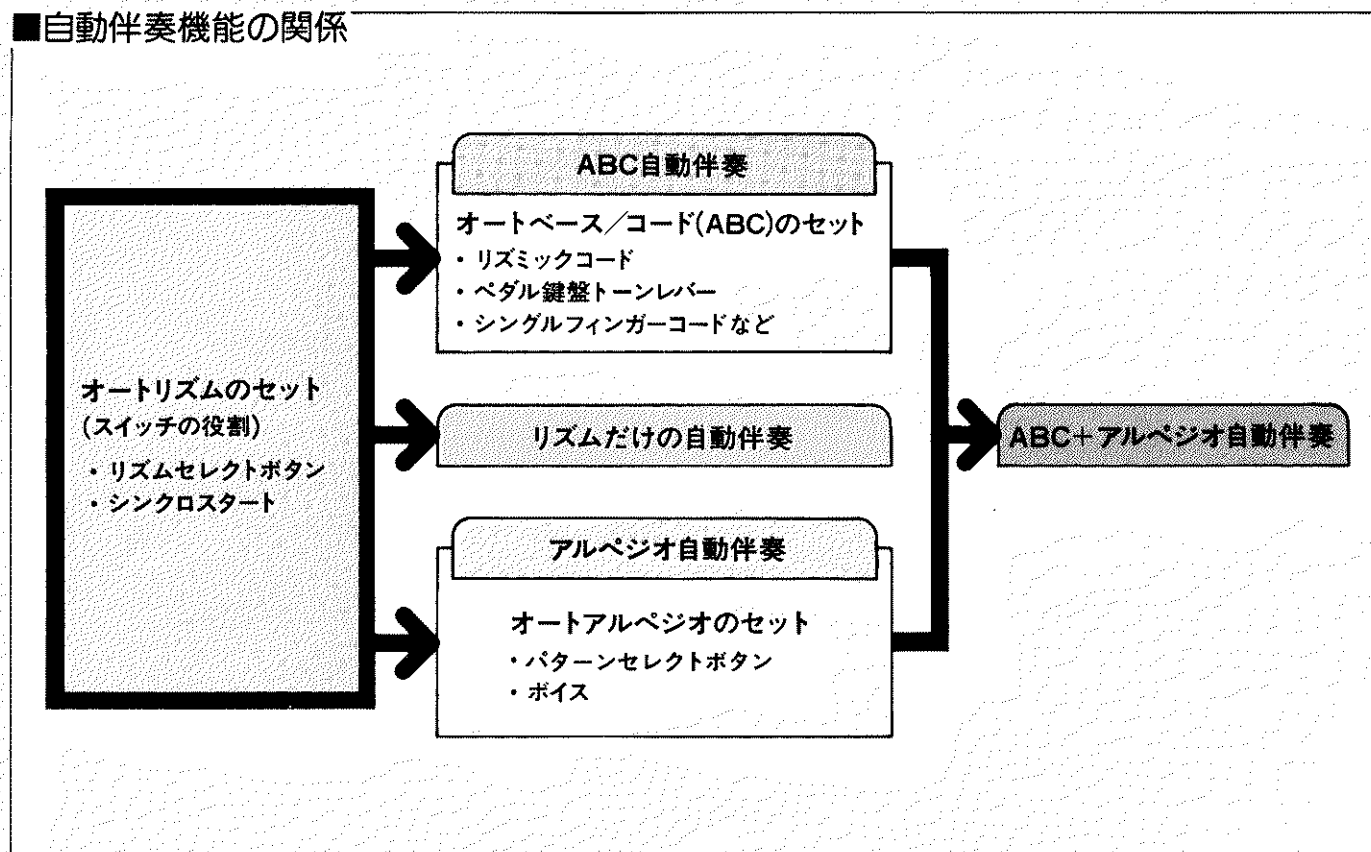
18ページで説明したように、下鍵盤をひとつ押さえるだけで自動的に和音になってリズム伴奏が得られます。

オートアルペジオは、その和音にしたがったパターンに変わり、より高度なアルペジオを簡単にだすことができます。

メモリーのロワーを入れると。

下鍵盤から指を離しても、それまで鳴っていたリズム伴奏とアルペジオがくり返されます。

■自動伴奏機能の関係



さらに 詳しく知るために。

PART I をお読みになって、各機能の基本的な操作法はおわかりいただけたでしょうか。このPART IIでは、エレクトーンのさまざまな音づくりを中心に、演奏にあたって知っておいていただきたいことを説明していきます。PART I を読んで、さらに詳しくエレクトーンを知りたいというかた、すべての機能を余すことなく知りたいというかたは、ぜひPART IIをごらんになってください。

エレクトーンの機能を十分にご理解いただき、美しい音色、豊かな響きを心ゆくまでお楽しみください。

目次	
1. 音色	23
2. ソロ鍵盤	26
3. 効果	28
4. オートリズム	31
5. オートベースコード	35
6. オートアルペジオ	37

1. 音色

●トーンレバーのカプラー効果

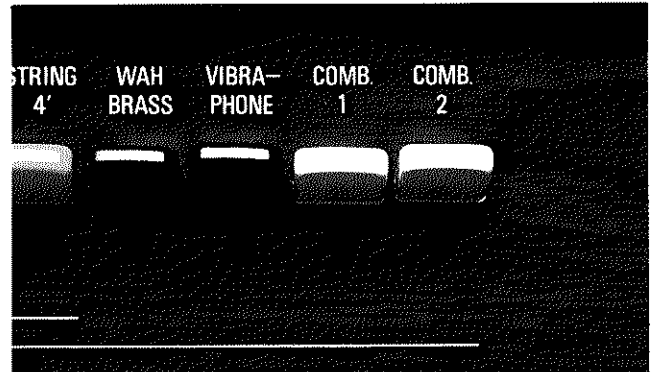
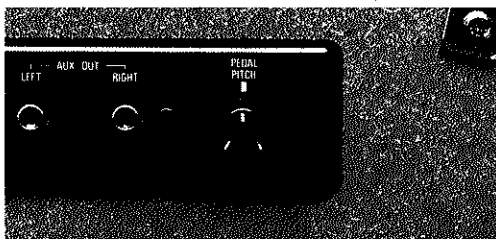
FLUTE8' はフルート8フィートと読みます。16' は16フィート、4' は4フィートです。これはパイプオルガンのパイプの長さ由来のもので、エレクトーンではその音色の音程を示しています。8' が基準の音程です。

	フィート数	実際にでる音	使われかたの例
上・下 鍵盤	16'	1オクターブ下の音	厚みを加える
	8'	押さえた鍵盤と同じ音程	基本的な音
	5½'	5度上の音	ジャズオルガンの感じにする
	4'	1オクターブ上の音	強さと明るさを加える
	2¾'	1オクターブと5度上の音	すどい感じにする
	2'	2オクターブ上の音	かたい音にする
	1'	3オクターブ上の音	きらびやかにする
ペダル 鍵盤	16'	踏んだ鍵盤と同じ音程	基本的な音
	8'	1オクターブ上の音	強さと明るさを加える

例えば、FLUTE16'、8'、4' を同時に入れ、ひとつ鍵盤を押さえた場合、ひとつしか押していないにもかかわらず1オクターブずつ違う3つの音を同時にだすことができます。カプラー効果とは、このようにひとつの鍵盤を押さえるだけで、音程の違う音色をだし、厚みのあるサウンドを得る効果をいいます。
★ペダル鍵盤の音は16' を基準にしています。

●ペダルピッチコントロール

ペダル鍵盤の音程を微妙にコントロールするつまみで、ニーレバーの右奥についています。上・下鍵盤の音程と少しずつ演奏することにより、響きに厚みが加わり、豊かな広がりが得られます。中央の位置が標準の音程になっていますから、好みによって調節してください。



●アッパープリセット

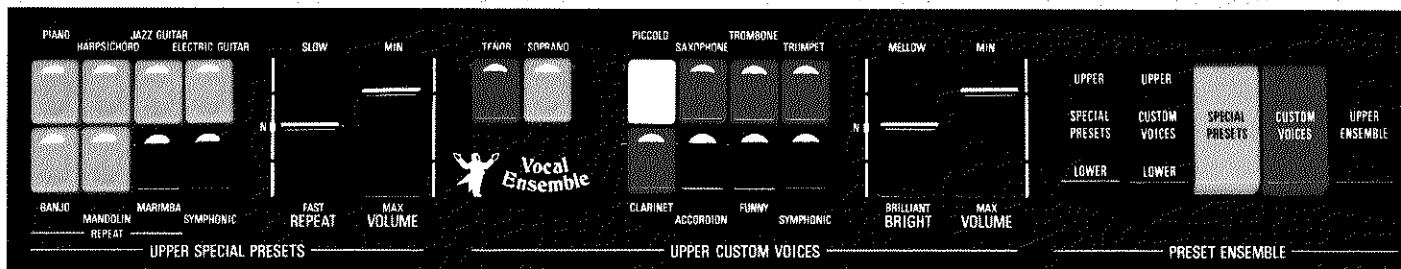
上鍵盤トーンレバーのうち、右端の3つのレバーはアッパープリセットといって、単独で使う音色です。このVIBRAPHONE、COMB.1、COMB.2のいずれかひとつを入れると、他の上鍵盤トーンレバーはすべてキャンセルされます。したがって、上鍵盤で得られる各音色の優先順位は次のようになります。

他のトーンレバー < アッパープリセット < スペシャルプリセット、カスタムボイス (< 優先)

ただし、アッパーアンサンブルのタブレットを入れることで、スペシャルプリセット音色、カスタムボイス音色と、アッパープリセット音色は組み合わせられます。

★アッパープリセットを2つ以上入れた場合は、右側のレバーが優先します。

1. 音色



●SPECIAL PRESETS (スペシャルプリセット)

7種類の楽器の音色がセットされていて、プリセットアンサンブルのスペシャルプリセットのタブレットを入れれば、上鍵盤または下鍵盤からだすことができます。

SYMPHONIC(シンフォニック)

スペシャルプリセットの音色にシンフォニックコーラスをかけるボタンです。スペシャルプリセットの音をだしている時、このボタンを押すと、3チャンネルのスピーカーから同時にだすことができ、幅のある豊かな音になります。

REPEAT(リピート)

バンジョー、マンドリン、マリмбаの音色は音がこきざみにでてくる断続音です。この断続(リピート)のスピードを、このスライドレバーで調節できます。FAST側(下)にさげるほど、スピードは速くなり、短い音の断続になります。

ツインマレット効果

マンドリン、マリмбаの音色を選んでいる時に、2つ以上同時に鍵盤を押さえると得られる効果です。1音のみ鍵盤を押さえている時はリピートがかかっていますが、2音押すと高音と低音が交互にでできます。3音以上押さえた場合は、最高音1音とその他の音が交互にでます。これをツインマレット効果といい、高度な奏法が簡単に得られます。

★スペシャルプリセット音色同士では組み合わせられません。もし2つ以上セレクトボタンを押した場合は、右側または下側のボタンが優先され、1種類の音色しかできません。

●CUSTOM VOICES (カスタムボイス)

プリセットアンサンブルのカスタムボイスのタブレットを入れれば、生き生きとした7種類の楽器音や2種類のボーカルアンサンブルの音色を、上鍵盤または下鍵盤からだすことができます。

VOCAL ENSEMBLE(ボーカルアンサンブル)

カスタムボイスの音色のうちテナーとソプラノは、ボーカルアンサンブルといって、人間のコーラスをイメージしてつくった特別な音色がセットされています。

SYMPHONIC(シンフォニック)

この黒のボタンを他のセレクトボタンと一緒に入れると、カスタムボイスの音色にシンフォニックコーラスをかけることができます。3チャンネルのスピーカーから同時に音がでますから、広がりのある響きが得られます。

BRIGHT(ブライト)

カスタムボイス音色の感じを変化させるスライドレバーです。

MELLOW(メロー)側……やわらかく豊かな感じになります。

BRILLIANT(ブリリアント)側……明るくきらびやかな感じになります。

★カスタムボイスの音色も一度にひとつの音色しか選べません。もし2つ以上セレクトボタンを同時に押した場合は、右側または下側のボタンが優先され、1種類の音色しかできません。なお、ボーカルアンサンブルにシンフォニックとブライトの効果はかかりません。

●PRESET ENSEMBLE (プリセットアンサンブル)

スペシャルプリセット音色とカスタムボイス音色の使いかたを決めるタブレットです。上鍵盤から単独で基本的な使いかたの他に、上鍵盤トーンレバーと組み合わせたり、下鍵盤に移して下鍵盤トーンレバーと組み合わせたりもできます。

UPPER ENSEMBLE(アッパーアンサンブル)

スペシャルプリセット音色とカスタムボイス音色を、上鍵盤トーンレバー音色とアンサンブルさせるタブレットです。トーンレバーとスペシャルプリセットまたはカスタムボイスのセレクトボタンをセットし、スペシャルプリセット(黄)、またはカスタムボイス(赤)のタブレットを入れておきます。そこに、このアッパーアンサンブルのタブレットを入れればアンサンブルされた音を得られます。

SPECIAL PRESETS UPPER/LOWER(スペシャルプリセット アッパー/ロワー)

スペシャルプリセット音色を下鍵盤からだしたい時に使うタブレットです。スペシャルプリセット(黄)のタブレットと同時に、このタブレットを入れてください。この時、下鍵盤トーンレバーをセットしていればアンサンブルされます。単独でだしたい時は、下鍵盤トーンレバーを切ってください。

★この場合、上鍵盤と同じ位置の鍵盤を押すと、1オクターブ上の音がでます。

★この状態でオートベース/コードのシングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA-B-Cのいずれかを使うと、スペシャルプリセット音色はでなくなります。

CUSTOM VOICES UPPER/LOWER(カスタムボイスアッパー/ロワー)



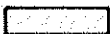
カスタムボイス音色を下鍵盤に移すタブレットです。カスタムボイス(赤)のタブレットと同時に、このタブレットを入れてください。下鍵盤トーンレバー音色とアンサンブルされて、下鍵盤から音がでてきます。単独でだしたい時は、下鍵盤トーンレバーを切ってください。

★この場合、上鍵盤と同じ位置の鍵盤を押すと、1オクターブ上の音がでます。

★この状態でオートベース/コードを使っても、カスタムボイス音色は下鍵盤からだすことができます。

★タブレットの入れ方とでてくる音

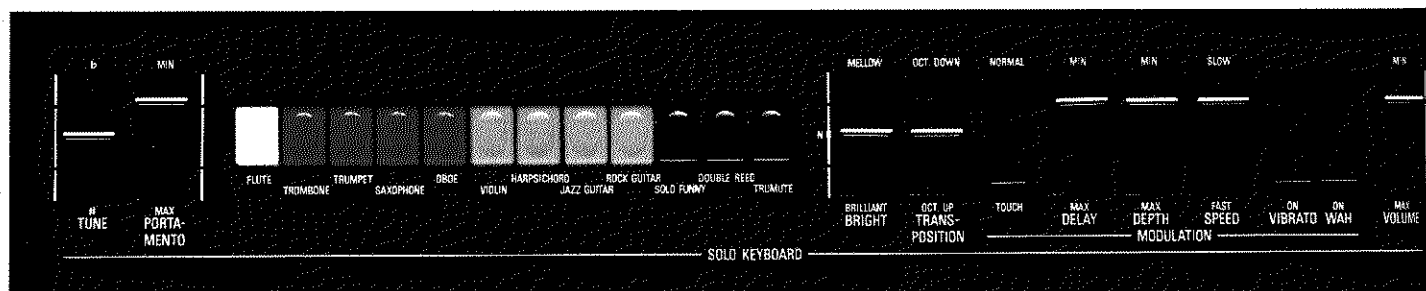
上・下鍵盤のトーンレバーを入れている時の音のでかたです。

 はスペシャルプリセット音色
 はカスタムボイス音色
 はトーンレバー音色です。

UPPER ENSEMBLE SPECIAL PRESETS UPPER/LOWER CUSTOM VOICES UPPER/LOWER	上鍵盤で でてくる音	下鍵盤で でてくる音

※アッパー/ロワーは、アッパーアンサンブルのタブレットに優先します。

2. ソロ鍵盤



●TUNE(チューン)

ソロ鍵盤の音程を、他の鍵盤の音程に合わせるためのスライドレバーですが、少しだけ音程をずらすことによって立体的なアンサンブル効果をだすこともできます。

- ①音色はフルートのボタンを押し、トランスポジションは中央の位置にセットします。ポルタメント、モジュレーションはすべてOFFの状態にしてください。
- ②上鍵盤トーンレバーは、フルート8'だけを入れます。
- ③上鍵盤とソロ鍵盤の同じ位置をひとつずつ押さえ、まず音量が同じになるようにボリューム調節をします。
- ④チューンのスライドレバーを調節して、共鳴音がなくなれば音程が合ったことになります。お好みによって、音程をずらしてください。

●PORTAMENTO(ポルタメント)

ひとつの音から他の音へ移るとき、その間の音程が連続してつながる効果で、なめらかですべるような感じになります。このスライドレバーを下にセットするほど、音程の変化する時間が長くなります。

また、ソロポルタメントのタブレット(29ページ参照)をあわせてセットしておけば、フットスイッチの操作で、演奏中、任意にポルタメント効果をかけることができます。

●BRIGHT(ブライト)

ソロ鍵盤の音色の感じを、曲想に応じて変化させるスライドレバーです。

MELLOW(メロー)側……やわらかく豊かな感じになります。
BRILLIANT(ブリリアント)側……明るくきらびやかな感じになります。

●TRANSPOSITION(トランスポジション)

ソロ鍵盤全体の音程を上下に1オクターブ移動させるスライドレバーで、上にセットすると1オクターブ低くなり、下にセットすると1オクターブ高くなります。この操作によって、3オクターブあるソロ鍵盤の音域が5オクターブに広がります。

●MODULATION(モジュレーション)

ビブラート効果やワウ効果をソロ鍵盤の音だけにかけることができます。

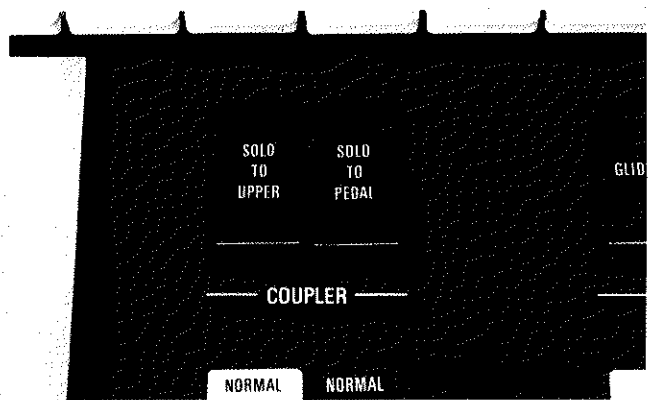
- ①VIBRATO(ビブラート)、WAH(ワウ)のタブレットで、かける効果を選びます。両方入れることもできます。
- ②DEPTH(デプス)のスライドレバーを手前に引けば効果がかかります。手前に引くほどかかりかた(深さ)が大きくなります。
- ③DELAY(ディレイ)のスライドレバーは、鍵盤を押さえてから少し遅れて効果をかけたいときに使います。手前に引くほど、かかるまでの時間が長くなります。
- ④SPEED(スピード)のスライドレバーでは、ビブラートやワウの速さを調節します。

TOUCH(タッチ)

このタブレットを入れると、ソロ鍵盤を左右にふるわせることでビブラートやワウ効果が得られます。

まず、ビブラートとワウのタブレットでかける効果を選び、デプスレバーを手前に引いておきます。次にタッチのタブレットを入れ、ソロ鍵盤を押さえます。押さえた指を左右に動かせば、自由自在に効果をかけることができます。

(このタブレットを入れた場合、ディレイ化スピードの調節はスライドレバーでなく、指のタッチでコントロールします)



●COUPLER(カプラー)

ソロ鍵盤の音色を、上鍵盤、またはペダル鍵盤に移す機能で、より効果的なアンサンブル演奏が楽しめます。

SOLO TO UPPER(ソロ トゥー アッパー)

このタブレットを入れると、ソロ鍵盤の音色が上鍵盤に移動し、上鍵盤の音色とアンサンブルされます。このとき、チューンのスライドレバーを使って、上鍵盤の音程と少しずらしておくともっと効果的です。

また、上鍵盤に移していても、ソロ鍵盤からも音をだすことができます。

SOLO TO PEDAL(ソロ トゥー ペダル)

このタブレットを入れると、ペダル鍵盤に移動し、ペダル鍵盤の音色とアンサンブルされます。このとき音程は、ペダル鍵盤の音程と同じになります。

なお、ソロ鍵盤から音は得られなくなります。

★SOLO TO UPPERとSOLO TO PEDALの両方を同時に入れると、SOLO TO PEDALが優先します。

3. 効果

●VIBRATO(ビブラート)

音をこきざみに震わせる効果で、上・下鍵盤の音にかけることができます。DELAY、DEPTH、SPEEDのレバーの操作によって次の2種類のビブラートが得られます。

普通のビブラート

DEPTH(デプス)レバーを下におろすことでかかります。このレバーはビブラートの深さ(音の高さの変化量)をコントロールするもので、下にさげるほどビブラートが深くなります。

SPEED(スピード)レバーは、デプスレバーでセットしたビブラートの速さをコントロールするもので、下にさげるほど速いビブラートが得られます。

ディレイビブラート

鍵盤を押してから少し間をおいてかかるビブラートです。まず、DEPTHレバーを入れ普通のビブラートをセットしておきます。次に、

DELAY(ディレイ)レバーを入れ、上鍵盤を押すと、ディレイビブラートがかかった音が得られます。このディレイレバーを下にさげるほど、ビブラートがかかり始めるまでの時間は長くなります。SPEEDレバーで速さを調節できるのは、普通のビブラートと同じです。

●Symphonic Chorus (シンフォニックコーラス)

エレクトーン独自の電子回路により、音にうらおいと輝きをもたせる効果です。しかも、3チャンネルシステムがフルに働き、左、右、中央の3つのスピーカーから、シンフォニックコーラスのかかった音色が得られますから、より立体的で豊かな響きとなります。次の5つのタブレットの選択で、シンフォニックコーラスをかけわけてください。

- UPPER FLUTE (アッパーフルート)
- UPPER ORCHESTRA (アッパーオーケストラ)
- LOWER FLUTE (ロワーフルート)
- LOWER ORCHESTRA (ロワーオーケストラ)
- PEDAL (ペダル)

★CELESTE(セレステ)は上の5つのタブレットと一緒に使います。シンフォニックコーラスのかかりかたがゆるやかになり、独特の響きが得られます。

●TREMOLLO(トレモロ)

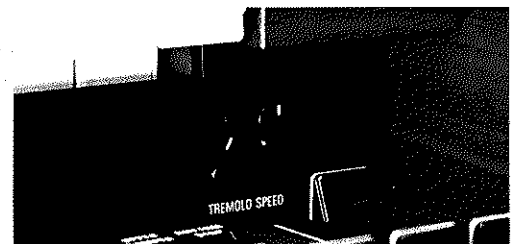
エレクトーンに内蔵されているトレモロスピーカーの前面でドラムを回転させ、音にうねりと広がりを持たせる効果です。ただし、低音域はトレモロをかけていてもセンターチャンネルのスピーカーからでます。

TREMOLLO(トレモロ)……速いトレモロのスイッチ
CHORUS(コーラス)……ゆっくりしたトレモロのスイッチ
この2つのタブレットのうち、どちらかを入れなければトレモロ効果はかかりません。同時に入れると、TREMOLLOが優先します。次に、トレモロ効果をかける音色を以下のタブレットで選びます。

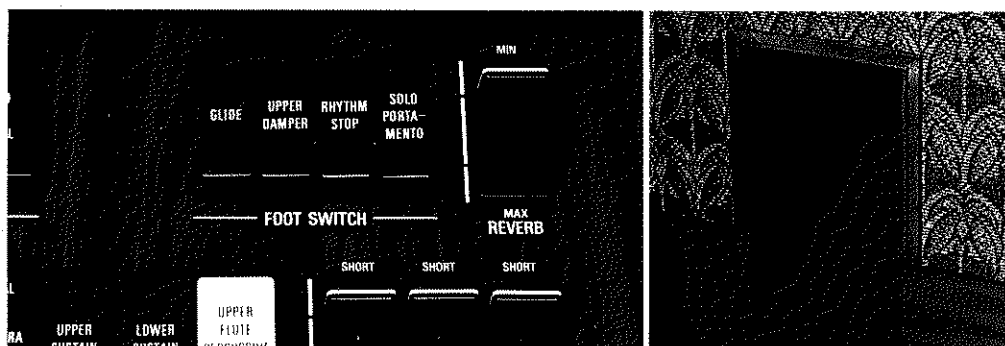
- UPPER FLUTE (アッパーフルート)
- UPPER ORCHESTRA (アッパーオーケストラ)
- LOWER FLUTE (ロワーフルート)
- LOWER ORCHESTRA (ロワーオーケストラ)

選んだタブレットの音は、トレモロ効果専用のトレモロスピーカーに送られます。

★TREMOLLO SPEED(トレモロスピード)のつまみは、下鍵盤の右側の奥にあります。TREMOLLOタブレットを入れている時、このつまみでスピーカーの前にあるドラムの回転速度を調節し、トレモロのかかりかたを微妙に変化させることができます。



★トレモロ効果とシンフォニックコーラス効果は組み合わせて使えます。ただし、同じ表示のあるタブレット(例えば、UPPER FLUTEとUPPER FLUTE)を同時に入れると、シンフォニックコーラスのみがかかりません。シンフォニックコーラスをオーケストラ音色に、トレモロをフルート音色に、というようにお使いください。



●FOOT SWITCH(フットスイッチ)で得られる効果

フットスイッチを操作することで得られる効果には4種類あり、それぞれの効果は次のタブレットで切りかえます。

GLIDE(グライド)

フットスイッチを押している間、音を半音さげる効果です。この効果を使うと、ウエスタンギターやハワイアンギターのような音も得られます。このタブレットを入れ、鍵盤を押したままフットスイッチを左に押すと、上・下鍵盤の音程が半音さがり、フットスイッチをはなすと、音程がもとにもどります。

UPPER DAMPER(アッパーダンパー)

フットスイッチを押している間、上鍵盤の音にサステイン効果をかける機能です。このタブレットを入れ、上鍵盤を押したままフットスイッチを左に押すと、上鍵盤の音にサステインがかかります。フットスイッチを離すとサステインはかかりません。

★上鍵盤トーンレバー音色にダンパー効果をかける場合、アッパーサステインのスライドレバーを使えば、音が消えるまでの時間を調節することができます。

★UPPER SUSTAIN(アッパーサステイン)のタブレットを同時に入れても、アッパーサステインタブレットの効果はかかりません。

★アッパーダンパーのタブレットを入れると、アタック4'・2%・2'およびコンビネーション1の中のアタック音はでなくなります。

★アッパープリセットのピブラフォンは、もともとサステイン効果をもっている音色ですが、アッパーダンパーを入れると、短いサステインになります。この状態でフットスイッチを押すと、もとのサステインの長さにもどります。

RHYTHM STOP(リズムストップ)

フットスイッチの操作で、リズムを一時ストップさせる機能です。リズムが鳴っている時、このタブレットを入れ、フットスイッチを一度押すとリズムが止まります。もう一度フットスイッチを押すと再びリズムがスタートします。

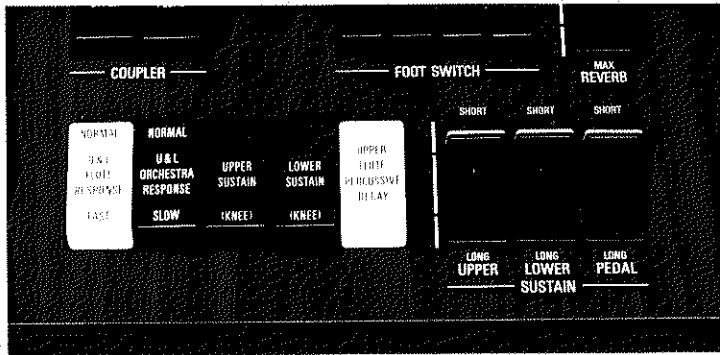
★フットスイッチでリズムをストップさせている時、リズムストップのタブレットを切ると、リズムはスタートします。

★シンクロスタートを入れ、オートベース/コードを使っている時、フットスイッチでストップさせたリズムは、下鍵盤を押しなおすことでもスタートします。

SOLO PORTAMENTO(ソロ ポルタメント)

フットスイッチを押している間、ソロ鍵盤の音色にポルタメント効果をかける機能です。あらかじめポルタメントのスライドレバーを手前に引いて、ポルタメントのかかりかたを調節しておきます。次にこのタブレットを入れると、ポルタメント効果はかからなくなりますが、フットスイッチを左に押している間、セットしておいたポルタメントをかけることができます。

3. 効果



●SUSTAIN(サステイン)

サステイン効果は、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤別々にかけることができます。操作法は14ページのとおりですが、サステインのかからない音色もあります。

アップーサステインがかかる音色

上鍵盤トーンレバー音色

スペシャルプリセットのピアノ、ハーブシコード、ジャズギター、エレクトリックギター

ロワーサステインがかかる音色

下鍵盤トーンレバー音色(ワウギターをのぞく)

スペシャルプリセットのピアノ、ハーブシコード、ジャズギター、エレクトリックギター

ペダルサステインがかかる音色

ペダル鍵盤トーンレバー音色

- ★スペシャルプリセット音色にかけられるサステインの長さは一定で、スライドレバーでは調節できません。
- ★サステインタブレットを入れるとアタック4、2 $\frac{1}{2}$ 、2'の音と、コンビネーション1の中のアタック音はでなくなります。

★ニーレバー(上・下鍵盤のサステインのみ)

ニーレバーを使うと、演奏中でも任意にサステインをかけたり、かけなかったりできます。サステインのタブレットとスライドレバーをセットしておきます。この状態でニーレバーを立てると、サステインはかかりません。このニーレバーを右ひざで右に押すとサステインをかけることができます。

●RESPONSE(レスポンス)

エレクトーンのトーンレバー音色は、厳密にいうと、鍵盤を押してからゆるやかに音がでて、鍵盤を離すとゆるやかに音が消えるようになっています。この音のでかたと消えかたをコントロールするのがレスポンス効果です。

U&L FLUTE RESPONSE(上・下鍵盤フルートレスポンス)

このタブレットを入れると、次の音色のでかたと消えかたが鋭くなり、歯切れのよい音になります。

上・下鍵盤トーンレバーのフルート音色

上鍵盤トーンレバーのアタック音

アップープリセットのコンビネーション1、2の中のフルート音色、コンビネーション1の中のアタック音

U&L ORCHESTRA RESPONSE(上・下鍵盤オーケストラレスポンス)

このタブレットを入れると、次の音色のでかたと消えかたがゆるやかになり、音がソフトになります。

上・下鍵盤トーンレバーのオーケストラ音色とワウプラス
アップープリセットのコンビネーション2の中のオーケストラ音色

- ★サステインタブレットを入れると、フルートレスポンス効果はきかなくなります。

●UPPER FLUTE PERCUSSIVE DECAY (アップーフルート パーカッシブディケイ)

フルート音色は、鍵盤を押さえてから離すまで連続して音がでますが、このタブレットを入れると、上鍵盤のフルート音色は鍵盤を押さえていても音が自然に消えていきます。このパーカッシブディケイ効果は次の音色にかかります。

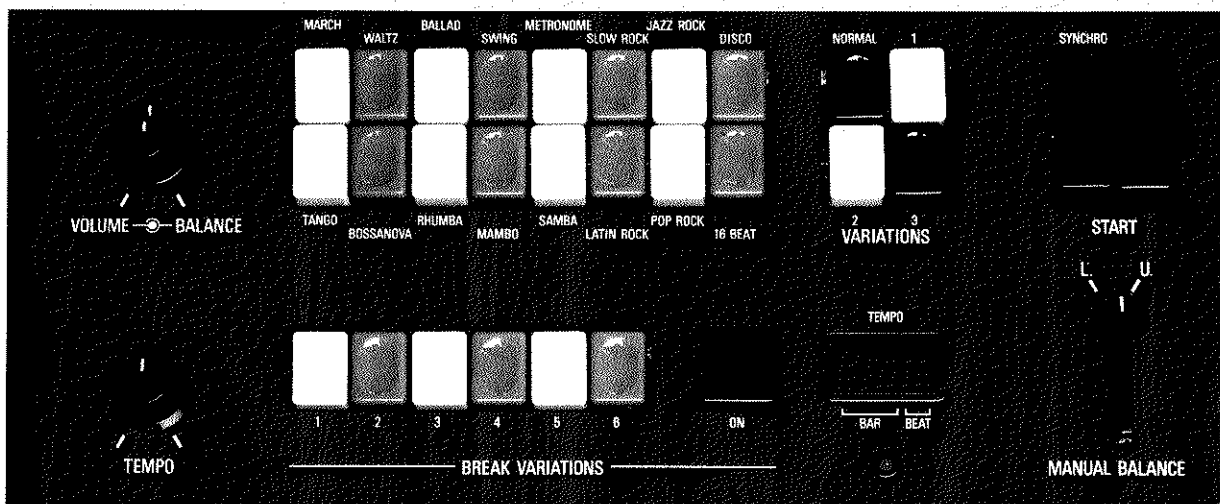
上鍵盤トーンレバーのフルート音色

アップープリセットの中のフルート音色

アタック音は減衰が短くなる効果が得られます

- ★音が消えるまでの時間は、アップーサステインのスライドレバーでコントロールすることができます。

4. オートリズム



●リズムコントロール

TEMPO (テンポ)

リズムの速さをコントロールするつまみで、右にまわすほどテンポが速くなります。リズムがストップしている時は、デジタルディスプレイにリズムの速さが表示されますから、曲のテンポ指定がある時などは、演奏前にセットできて便利です。

VOLUME (ボリューム)

リズムの音量をコントロールするつまみで、右にまわすほどリズムの音量は大きくなります。鍵盤の音の音量とバランスをとるためのものです。

BALANCE (バランス)

リズム音の高音部と低音部のバランスをコントロールするつまみです。左にまわすとバスドラムやボンゴなどの低音部、右にまわすとシンバルやハイハットなどの高音部が強調されます。

●テンポインジケータランプ

デジタルディスプレイの下についている赤いテンポインジケータランプは、リズムの1拍目または、4分音符ごとに点滅し、演奏時にタイミングをとったりするのに便利です。

★リズムが鳴っている時は、リズムの小節の1拍目に点滅します。

★シンクロススタートを入れている時、リズムがスタートしている間は、小節の1拍目に、ストップしている間は、4分音符ごとに(リズムの組み合わせによっては変わることもあります)点滅します。

●BREAK VARIATIONS

(ブレイクバリエーション)

ブレイクバリエーションには、6つのパターンがあり、1~6のセレクトボタンを組み合わせることもできます。ONのボタンを押すだけで、演奏中、任意にこの変則リズムへ切りかえることができますが、次のような使いかたをすると、より効果的です。(なお、ブレイクバリエーションの作動中は、ABC、オートアルペジオ、ワウギターはきざまれません)

次に説明する、リズムシーケンスプログラマー機能を使って記憶させる。

これによって、フレーズの変わり目などで、自動的にブレイクバリエーションへ切りかえることができます。また、リズムとのインタープレイも可能になります。

ABCを使い、ロワーのメモリーボタンを押す。

これによって、伴奏をときらせることなく左手が使えますから、演奏中でも余裕をもってONのボタンが押せます。

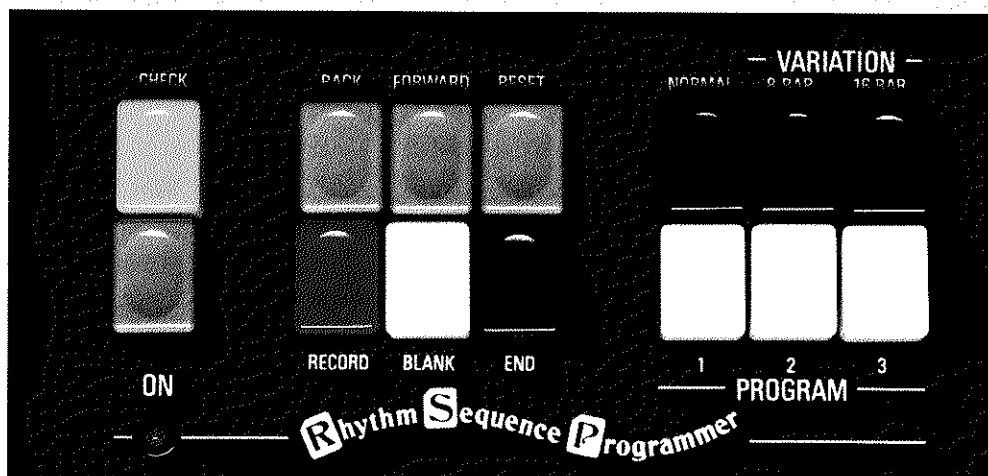
★イントロ機能

スタートのタブレットを押してリズムをスタートさせる前に、ブレイクバリエーションのONのボタンを押しておけば、イントロが1小節だけ自動的に入ってきます。ブレイクバリエーションのセレクトボタンを押さずにONのボタンを押せば、4分音符単位のイントロが得られますから、リズムをとるのに便利です。1~6のセレクトボタンを押しておけば、それぞれのパターンがイントロとして得られます。

また、シーケンスプログラマー機能を使ってプログラムすることもできます。

4. オートリズム Rhythm Sequence Programmer (リズム シーケンス プログラマー)

さまざまなリズムパターンを、あらかじめ記憶させておき、演奏する時に再生させる機能です。曲の途中で、リズムを自動的に変化させることができますから、より多彩な演奏が可能になります。



●基本的な使い方

①PROGRAM(プログラム)のボタンを押す。
3つ並んでいる白いボタンがプログラムボタンです。1、2、3のどれかを押してください。このボタンは、いわば記憶バンクにあたり、プログラムしたリズムパターンがここに記憶されます。1、2は32小節、3は64小節まで記憶させることができます。

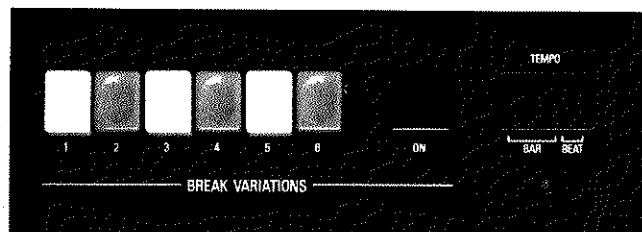
②ONのボタンを押す。
左端の下にあるグレーのボタンを押してください。このボタンは、リズムが記憶される状態に切りかえる働きをします。ボタンを押すと、この下にあるレコードインジケータランプが赤く点灯し、プログラム可能であることを示します。

③リズムを選ぶ。
記憶させたいリズムのセレクトボタンを押してください。この時、リズムのスタートタブレットを入れると、記憶しようとするリズムを聴きながらプログラムできます。

★リズムバリエーション1、2、3もプログラムできますが、16の基本リズムを組み合わせたリズムはプログラムできません。

2つ以上ボタンを押すと、右側または下側のセレクトボタンのリズムが優先して記憶されます。

④RECORD(レコード)のボタンを押す。
この赤いボタンを押すことで、セットしているリズムパターンが記憶されていきます。1回押すごとに1小節ずつ記憶されますから、ご希望の小節数だけこのボタンを押してください。



★ONのボタンを押し、プログラム状態にすると、右下のデジタルディスプレイの表示は(1)になり、レコードボタンを押すたびに数字がひとつずつ進みます。つまり、次にプログラムしようとする小節が何小節目かを示すわけです。

⑤リズムを変えて、レコードボタンを押す。
リズムを変えたい小節数をデジタルディスプレイの数字が示したら、リズムをセットしなおし、レコードボタンを押してください。

★ブレイクバリエーションもプログラムできます。その場合は、1～6のセレクトボタンをひとつ選び、ブレイクバリエーションのONのボタンを押します。そして、押したままの状態レコードボタンを押せば、1小節ずつ記憶されていきます。

★PROGRAM1、2で32小節、3で64小節までプログラムできます。そこまでプログラムが終わると、デジタルディスプレイに(F)が表示され、それ以上プログラムできないことを示します。

⑥END(エンド) ボタンを押す。

必要な小節数だけプログラムしたら、この緑色のボタンを押してください。ONのボタンの下にあるレコードインジケータランプが消え、再生可能状態になったことを示します。このエンドボタンを押して、プログラムを完了させるのは、何小節目でもかまいません。再生した時、エンドボタンを押したところまでリズムがくると、自動的に1小節目までもどり、何度でも繰り返されます。

⑦リズムスタートタブレットを入れる。

スタートスイッチを入れると、記憶させたリズムが1小節目から再生されます。シンクロのタブレットを入れると、伴奏を始めると同時に再生がスタートします。リズムの速さはテンポつまみでコントロールしてください。

★PROGRAM1、2、3の2つ以上に記憶させ、再生する時にそれらを押しておくと連続して再生することができます。この時、再生される順序はプログラムボタンの番号の小さい方からスタートし、そのボタンの再生が1回終わると次のボタンの再生に続きます。もし、1～3に容量いっぱい32、32、64小節を記憶させ、再生する時に1～3を同時に入れておけば、合計128小節の連続再生が可能です。

★記憶させたリズムは、エレクトーンの電源を切っても消えません。また、新しいリズムを記憶させると、自動的に前のリズムはキャンセルされます。

●BLANK(ブランク)

リズムを記憶させている際、リズムなしの小節を入れたい時に使うボタンです。リズムなしにしたい小節をデジタルディスプレイが示したら、ブランクボタンを押したまま、レコードボタンを必要な小節数だけ押してください。

●デジタルディスプレイ

ブレイクバリエーションの右にあるデジタルディスプレイは、オートリズムの使いかたによって、その表示が変わります。

①テンポ表示。

リズムが鳴っていない時は、テンポつまみでセットしているリズムの速さが表示されます。この数字は、1分間に打つ4分音符の数ですから、演奏前にテンポをセットする時の目安にしてください。

②バー・ビート表示。

リズムをスタートさせると、小節数と拍数が表示されます。左2ケタがスタートから何小節目か、右1ケタが何拍目かを示すものです。記憶させたリズムを再生する時もこの表示になります。

③バー表示。

リズムシーケンスプログラマーで、リズムをプログラムしている時や、チェックしている時は、小節数だけの表示になります。プログラムしようとするのが何小節目か、またはチェックしているのが何小節目かを示します。

4. オートリズム

●プログラムの修正とチェック

リズムのプログラムの途中で、記憶させたリズムを部分的に修正したり、プログラムが完了した後で、記憶させたリズムをチェック、修正するためのボタンもついています。

BACK (バック)

プログラムの途中、またはチェックしている時、このボタンを押すと小節がひとつずつもどります。

FORWARD (フォワード)

バックボタンの逆で、このボタンを押すと小節がひとつずつ進みます。

RESET (リセット)

プログラムの途中で、このボタンを押すと1小節目まで一度にもどります。

CHECK (チェック)

プログラムを完了した後、記憶させたりリズムを1小節ずつチェックする時に使うボタンです。

★これらのボタンを押すだけで、その時セットしているリズムがプログラムされたり、記憶させているリズムが消えたりすることはありません。

★プログラムの途中で修正する手順

- ①バックボタンを押し、デジタルディスプレイで小節数を確認しながら、修正したい小節までもどします。
- ②新しいリズムをセットし、レコードボタンを押せば修正完了です。
- ③フォワードボタンを押して、プログラムをしていた小節まで進め、プログラムを続けてください。

★チェックの手順

- ①チェックしたいプログラムボタン(1,2または3)を押します。
- ②チェックボタンを押してください。デジタルディスプレイの表示は(1)になります。
- ③リズムスタートのタブレットを入れると、1小節目に記憶させたリズムが鳴りはじめます。
- ④フォワードボタンを押します。1回押すと小節がひとつ進みますから、2小節目、3小節目と記憶させたリズムを小節ごとに止めてチェックしてください。
※記憶されている小節が終わると、デジタルディスプレイに(E)が表示され、チェックが終了したことを示します。
- ⑤チェックの途中でリズムを修正したいときは、ONのボタンを押し、新しいリズムをセットした上で、レコードボタンを押せば変更できます。
- ⑥チェックの途中で小節をもどしたい時は、バックボタンまたはリセットボタンを使ってください。

●8BAR・16BAR (8バー・16バー)

リズムバリエーション3のパターンが、自動的に普通のリズムに入ってくる機能です。

8BAR (8バー)

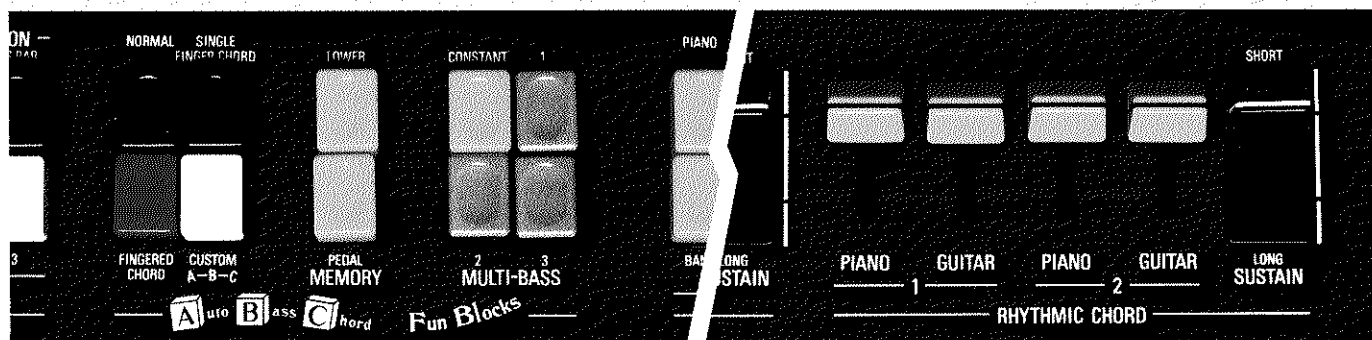
8小節目ごとに、選んだリズムのバリエーション3のパターンが1小節入ってきます。

16BAR (16バー)

16小節目ごとに、バリエーション3のパターンが自動的に入ってきます。

★ノーマルのボタンは8バー、16バーおよび、プログラムさせたリズムの再生状態をキャンセルするボタンです。

5. オートベース/コード



●オートベース/コードの音色

オートベース/コードには、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA-B-Cの3種類の使いかたがありますが、これらを使っている時の音色は次のとおりです。

RHYTHMIC CHORD (リズムックコード)

オートリズムに連動している音色で、リズムをスタートさせている時、下鍵盤を押さえるとリズム伴奏となって得られます。ピアノ1、2、ギター1、2の各音色がきざむパターンは、選んだリズムによって決定されます。

シングルフィンガーコードを使うと、鍵盤をひとつ押さえるだけで和音になってきざまれ、フィンガードコードかカスタムA-B-Cを使うと、押さえたとおりの和音できざまれます。また、音色レバーの右にあるサステインのスライドレバーをLONG側にセットすれば、リズムックコードの音色にサステインがかかります。

ペダル鍵盤トーンレバー

リズムにのったベース音が自動的に得られますが、リズムックコードのきざみかたとはちがひ、順次単音でてくるベースパターンになります。ベースパターンは、選んだリズムによって決定され、マルチベースのボタンを押すことで、バリエーションをつけることができます。

シングルフィンガーコードかフィンガードコードを使うと、下鍵盤で押さえた音をもとに、カスタムA-B-Cを使うと、ペダル鍵盤で踏んだ音をもとにベース音が得られます。

下鍵盤トーンレバー

オートベース/コードを使っている時、下鍵盤トーンレバーを入れると持続音として得られます。

★WAH GUITAR (ワウギター)だけは、持続音ではなく、リズムをきざみます。きざむパターンは選んだリズムによって決定されますが、リズムックコードとは別のきざみかたをします。

カスタムボイス

カスタムボイスアッパー/ローアのタブレットを入れると、オートベース/コードを使っている時でも、カスタムボイス音色が下鍵盤から得られます。

●CUSTOM A-B-C (カスタムA-B-C)

シングルフィンガーコード、フィンガードコードのかわりにカスタムA-B-Cのボタンを使えば、下鍵盤とペダル鍵盤別々に自動伴奏が得られます。

- ①リズムをセット。
- ②音色をセット。(リズムックコード、ペダル鍵盤トーンレバー、下鍵盤トーンレバー)
- ③カスタムA-B-Cのボタン(白)を押す。
- ④下鍵盤を和音で押さえると同時に、ペダル鍵盤も踏む。

下鍵盤の和音とペダル鍵盤の音は切り離されていますので、リズムックコードの音色と下鍵盤トーンレバー音色は、下鍵盤で押さえたとおりの和音になり、ペダル鍵盤トーンレバー音色は、ペダル鍵盤で踏んだ音をもとに自動伴奏されます。つまり、フィンガードコードで和音を押さえた時に自動的に得られるベース音を、ペダル鍵盤で選ぶわけですから、下鍵盤の和音とちがったベース進行も可能になり、より高度な自動伴奏ができます。

5. オートベース/コード

●CONSTANT(コンスタント)

シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA-B-Cを使っている時に、このコンスタントのボタンを押すと、オートリズムとの連動が切られます。したがってオートリズムに連動しているリズムコードの音色はでなくなります。ペダル鍵盤トーンレバーの音色も、リズムにのったベースパターンではなくなります。

★シングルフィンガーコードとコンスタントを同時に入れた時でも、下鍵盤トーンレバーの音色は和音の持続音として得られます。ただし、ワウギターの音色だけは、コンスタントを入れてもリズムにのってできます。

●オートリズムとの関係

オートベース/コードはオートリズムと連動して働きますから、オートリズムのスタートのタブレットやフットスイッチの操作によって、次のような音のでかたになります。

★スタートタブレットを入れている時。

下鍵盤から指を離すとオートベース/コードは作動しなくなりますが、リズムは鳴り続けます。ただし、メモリーボタンを入れていると、指を離してもオートベース/コードは作動し続けます。

★シンクロのタブレットを入れている時。

下鍵盤を押さえると同時にリズムとオートベース/コードが作動し始め、指を離せば両方とも止まります。カスタムA-B-Cを入れている時は、下鍵盤とペダル鍵盤のどちらかを押ししている間、リズムは作動します。

★フットスイッチでリズムを止めている時。

フットスイッチタブレットのリズムストップを入れ、フットスイッチを押すと、リズムとともにリズムコードの音色はでなくなります。ペダル鍵盤トーンレバー音色はリズムに無関係になります。

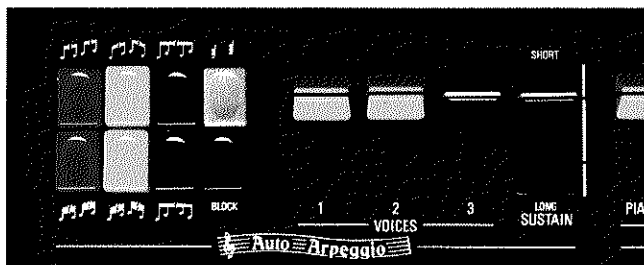
★ブレイクバリエーションを入れた時。

ブレイクバリエーションのONのボタンを押して、ブレイクバリエーションのパターンを挿入させている間は、オートベース/コードは作動しません。ブレイクバリエーションをプログラムし、それが再生されている時も同様です。

★オートリズムだけ使っている時。

下鍵盤の音が自動的に和音になったり、ペダル鍵盤の音が自動的にベースパターンになることはありませんが、リズムコードの音色は、下鍵盤を押さえた音でリズムをきざみます。ワウギター音色もリズムコードとはちがったパターンでリズムをきざみます。

6. オートアルペジオ



●オートアルペジオの音色

オートアルペジオの音色には、VOICE1、2、3の3種類あり、1、2は4'、3は2'の音程です。スライドラバーで個々の音色ごとに音量調節ができ、しかも3つの音色を自由に組み合わせることもできます。

右どりのサステインレバーは、オートアルペジオ専用のもので、下にさげればボイス1、2、3の音色にサステインがかかります。

●パターンセレクトボタン

オートアルペジオのセレクトボタンは8つ並んでいますが、ボタンによって使いかたがちがいます。

赤・黄・緑のボタン

アルペジオのパターンを選ぶボタンです。下鍵盤で押さえた音をもとに、単音でアルペジオがきざまれます。パターンは選ぶリズムや、下鍵盤を複数押さえることによって変化します。

グレーのボタン

下鍵盤を3音押さえると、それらが和音となり、4分音符のタイミングで1オクターブずつシフトしていきます。パターンセレクトボタンのひとつですが、緑色のセレクトボタンと組み合わせることもできます。

BLOCKボタン

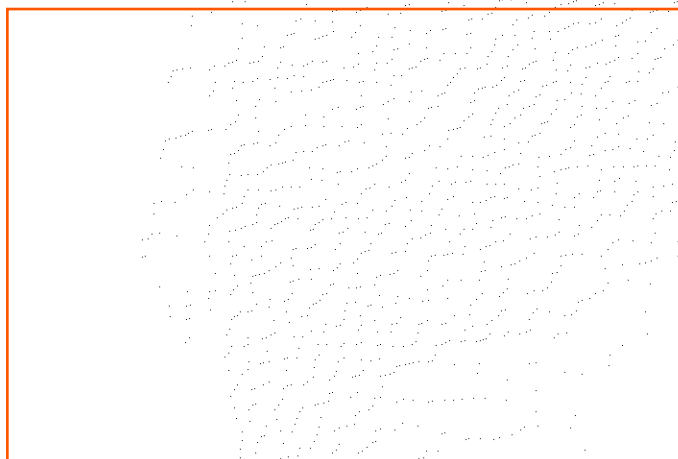
他のセレクトボタンと組み合わせて使うボタンです。赤・黄・緑のセレクトボタンのどれかを入れている時、このボタンを加えると、単音できざまれていたアルペジオ音が、自動的に3音構成の和音になってアルペジオパターンをきざみます。グレーのボタンとは組み合わせられません。

●オートリズム、オートベース/コードとの関係

オートアルペジオは、リズムに連動してきざまれますから、オートリズムを入れていなければ得られません。また、オートベース/コードと同時に使用することができます。

★シンクロスターのタブレットを入れておくと、下鍵盤を押さえると同時に、リズムとアルペジオが1拍目からスタートします。また、フットスイッチでリズムをストップさせている間は、オートアルペジオも止まります。

★シングルフィンガーコードと組み合わせると、下鍵盤をひとつ押さえるだけで、和音を押さえた時に得られるアルペジオのパターンになります。また、ペダル鍵盤を同時に踏むことで、アルペジオ音もセブンスやマイナーコードの音に変えることができます。



仕様と音域表

●仕様

●鍵盤

ソロ鍵盤：37鍵(c1~c4) 上鍵盤：49鍵(c~c4)
下鍵盤：49鍵(C~c3) ペダル鍵盤：13鍵(C~c)

●トーンレバー

上鍵盤：フルート16'・8'・5 $\frac{1}{2}$ '・2 $\frac{3}{4}$ '・2'・1'、プラス16'・8'、クラリネット16'、オーボエ8'、キヌラ8'、ストリング16'・8'・4'、ワウラス、アタック音=アタック4'・2 $\frac{3}{4}$ '・2'、アッパープリセット=ビブラフォン・コンビネーション1・コンビネーション2

下鍵盤：フルート8'・4'・2 $\frac{3}{4}$ '・2'、ディアソソ8'、ホルン8'、イングリッシュホルン8'、チェロ8'・4'、ワウギター

ペダル鍵盤：バス16'・8'、チューバ16'、ストリングベース8'、ベースギター8'

●スペシャルプリセット

セレクトボタン：ピアノ、ハーブシコード、ジャズギター、エレクトリックギター、バンジョー、マンドリン、マリンバ

●カスタムボイス

セレクトボタン：ピッコロ、サクソフォン、トロンボーン、トランペット、クラリネット、アコーディオン、ファニー、ボーカーアンサンブル=テナー・ソプラノ

コントロール(エフェクト)：シンフォニック、ブライト、ボリューム

●プリセットアンサンブル

スペシャルプリセットアッパー/ロワー、カスタムボイスアッパー/ロワー、スペシャルプリセット、カスタムボイス、アッパーアンサンブル

●エフェクト(コントロール)

ブリリアンス、アタックレングス、ビブラート=ディレイ・デプス・スピード、シンフォニックコーラス=セレスト・ペダル・ロワーオーケストラ・ロワーフルート・アッパーオーケストラ・アッパーフルート、トレモロ=コーラス・トレモロ・ロワーオーケストラ・ロワーフルート・アッパーオーケストラ・アッパーフルート、トレモロスピード、カブラー=ソロトウアッパー・ソロトウペダル、フットスイッチ=グライド・アッパーダンパー・リズムストップ・ソロポルタメント、リバーブ、U&Lフルートレスポンス、U&Lオーケストラレスポンス、アッパーサステイン、ロワーサステイン、アッパーフルートパーカッションディケイ、サステインレバー=アッパー・ロワー・ペダル、ペダルピッチ

●ソロ鍵盤関係

セレクトボタン：フルート、トロンボーン、トランペット、サクソフォン、オーボエ、バイオリン、ハーブシコード、ジャズギター、ロックギター、ソロファニー、ダブルリード、トラミュート

コントロール：チューン、トランスポジション、ボリューム

エフェクト：ポルタメント、ブライト、モジュレーション=タッチ・ディレイ・デプス・スピード・ビブラート・ワウ

●オートリズム

セレクトボタン：マーチ、ワルツ、バラード、スイング、メトロノーム、スローロック、ジャズロック、ディスコ、タンゴ、ボサノバ、ルンバ、マンボ、サンバ、ラテンロック、ポップロック、16ビート

バリエーション：ノーマル1・2・3、ノーマル8バー・16バー

ブレイクバリエーション：1・2・3・4・5・6、オン

コントロール：スタート、シンクロススタート、テンポ、ボリューム、バランス、デジタルディスプレイ、テンポインジケータランプ

リズムシーケンスプログラマー：チェック、オン、バック、フォワード、リセット、レコード、ブランク、エンド、プログラム1・2・3、レコードインジケータランプ

●オートベース/コード

セレクトボタン：ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABC、メモリー=ロワー・ペダル、コンスタント、マルチベース=1・2・3

●リズムックコード

音色レバー=ピアノ1・ギター1・ピアノ2・ギター2、サステイン

●オートアルペジオ

セレクトボタン=7パターン、ブロック、ボイス1・2・3、サステイン

●その他

パワースイッチ、マスターボリューム、マニュアルバランス、エクスプレッションペダル、フットスイッチ、ニーレバー、ヘッドホンジャック、AUX-OUTジャック、AUX-INジャック、EXP-INジャック、ステレオヘッドホンジャック、AUX-OUTレフト/ライト、トーンキャビネットコネクタ=ヤマハ11P・ヤマハ13P・レスリー11P

●アンプ

メインアンプ60W、トレモロアンプ60W、左右アンプ30W×2

●スピーカー

メインスピーカー30cm×20cm×5cm、トレモロスピーカー20cm、左右スピーカー20cm×2

●定格電圧100V、定格消費電力200W、定格周波数50/60Hz

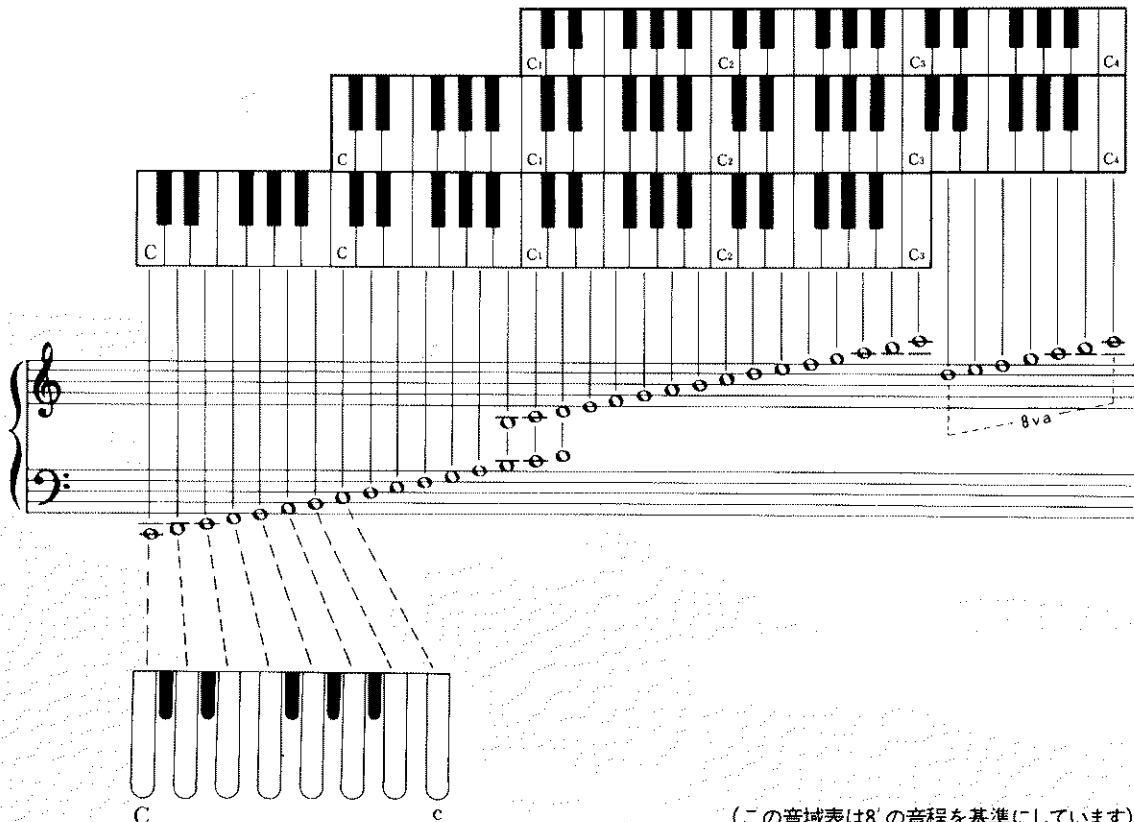
●寸法

間口118.6cm、奥行75.4cm、高さ104.4cm(譜面台を立てた時123.4cm)、重量115kg(椅子別)

●外装

アメリカンウォルナットグレイ

●音域表



(この音域表は8'の音程を基準にしています)

付属端子と音のエチケットについて

●エレクトーン棚板下の付属端子

●HEADPHONE(ヘッドホン端子)はヘッドホンと接続するためのものです。ジャックを入れると、エレクトーンのスピーカーからは音が出ません。(モノラルヘッドホン専用)

●AUX-OUT(ライン出力端子)はエレクトーンで演奏した音をテープに録音したり、他のアンプに接続する時に使うものです。

●AUX-IN(ライン入力端子)はレコードやテープの音をエレクトーンのスピーカーを使って出し、これに合わせて演奏することができるものです。

●EXP-IN(EXP連動入力端子)はリズムボックスやシンセサイザーなどを接続して、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量を調節しながら演奏できるものです。

●STEREO HEADPHONE(ステレオヘッドホン端子)はステレオヘッドホンと接続するものです。音が左右にふり分けられて聞こえます。(ステレオヘッドホン専用)

●AUX-OUT LEFT / RIGHT(ライン出力端子)の2つの端子は、ステレオ装置で聴いたり、ステレオテープレコーダーに録音する時に使用します。

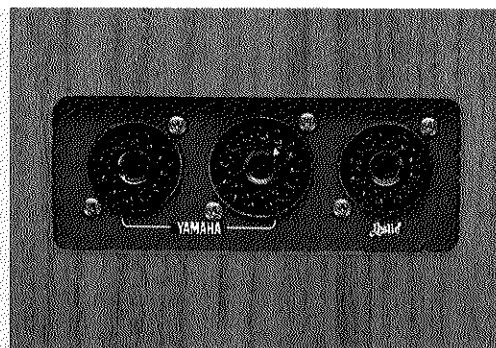


●トーンキャビネットコネクター

演奏会、発表会などの際に、トーンキャビネットを接続すれば、よりダイナミックなサウンドが得られます。

●YAMAHA(ヤマハ)のコネクターは、電子トレモロ効果内蔵のヤマハトーンキャビネットに接続します。トーンキャビネットの機種に応じて、11Pと13Pのコネクターがあります。

●LESLIE(レスリー)のコネクターは11Pで、レスリースピーカーに接続できます。



●音のエチケット

私たちの日常生活と音は切っても切れない関係にあります。音がなくなったら、それこそたいへんです。でも、いくらきれいな音でも雑音と同じように感じる時だってあります。自分が気持ちよく演奏していても、他人にとっては迷惑なこともあるのです。ですから、特に人が眠るような時間に音を出すことは、避けなくてはなりません。いくら窓を閉め切っても、音はどこからか伝わってしまいます。そんな時はぜひヘッドホンをお使いになって、心ゆくまで演奏をお楽しみください。音についても私たちは互いにゆずりあい、やさしい心づかいを示すのがエチケットです。美しい音楽を愛されると同時に、住みやすい環境をご自身の手で守ってくださいますよう、皆様のご協力をお願いいたします。



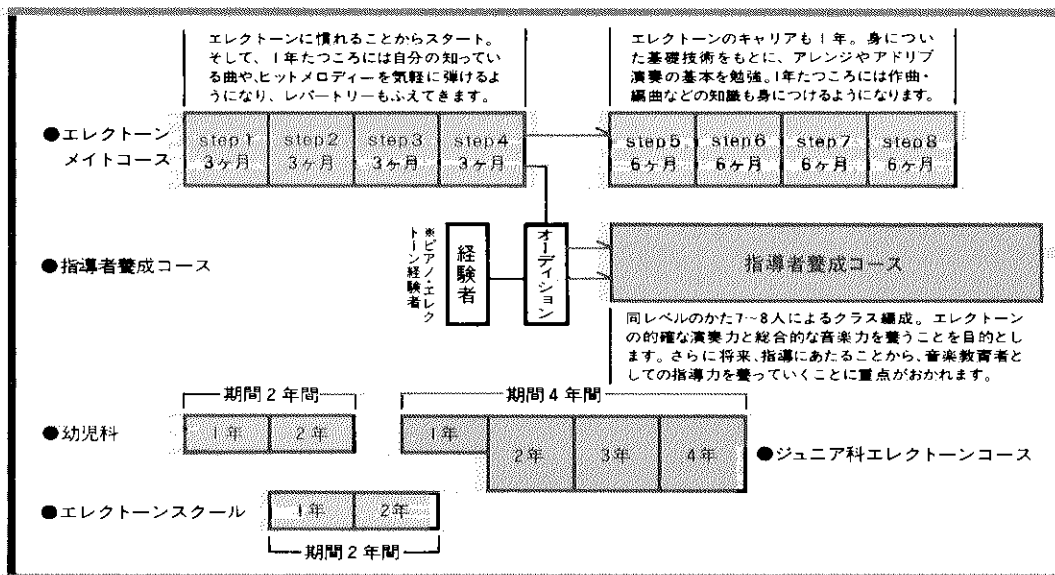
HP-50A(モノラル)

HP-3(ステレオ)

エレクトーン教室のご案内



お子様に正しい音楽教育を、とお考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しております。ヤマハエレクトーン教室は、自宅や学校、またお勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行なっていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。



ヤマハの主なコンサート

●エレクトーンフェスティバル(EF)

インターナショナルエレクトーンフェスティバルは、新しい音楽の創造をめざして、年1回開かれる国際的な催物です。全国180会場の予選を経て、全日本大会にのぞむ国内の参加者に加え、海外からも多くの参加者を数え、世界のオルガン界に認められた権威ある催しとなっています。

●ジュニアオリジナルコンサート(JOC)

15才以下の子どもたちが、自分でつくった曲を自分で演奏し、発表するコンサートです。オリジナルのソロやアンサンブル

曲、また即興曲など、自由で独創性にあふれた音楽が、発表されています。また、国内だけでなく、海外からも招かれ、「小さな音楽使節」と讃えられています。

●シニアコンサート(SC)

ジュニアオリジナルコンサート活動を通して豊かな音楽性を身につけた16才以上のシニアたちが、さらに新しい可能性を拓けるコンサートです。ソロやアンサンブル曲だけでなく、オーケストラとの協奏曲も演奏され、各方面から注目を集めています。

エレクトーンの出出版物

●エレクトーンポピュラーシリーズ

ジャンル別にポピュラー音楽を選曲した曲集です。

●エレクトーン5セレクションシリーズ

一流プレイヤーが選曲、アレンジした5曲が収められています。

●エレクトーンワイド12シリーズ

ビックアーティストをクローズアップした曲集です。

●エレクトーンラブサウンズシリーズ

愛をテーマにした名曲を選んだシリーズです。

●エレクトーンクラシックシリーズ

クラシックの名曲をエレクトーン用にアレンジしました。

●エレクトーンヒット50シリーズ

ポケットサイズで一冊に50曲収めたメロディー譜曲集。

●エレクトーンパーソナルシリーズ

一流プレイヤーの作品集として作られたユニークな曲集です。

●エレクトーンファンファンファン

最新のヒット曲を中級者向けに編集しました。

●ABC曲集

シングルフィンガープレイを中心にしたファミリー向け曲集。

●レッツプレイエレクトーン

13~10級の人のために編集されたサブテキストです。

●エレクトーンレパトリーシリーズ

9~6級を受験する人のためのレパトリー曲集です。

●エレクトーンデュエット

レコードが付いたユニークな曲集です。

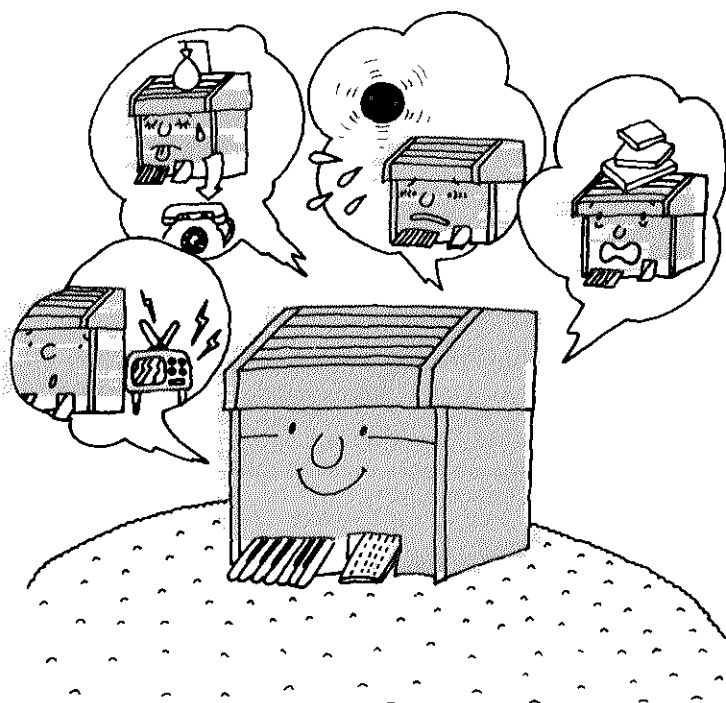
●ジョイフルエレクトーン

初級者向けにアレンジされた曲が収められています。

長くお楽しみいただくために

エレクトーンをいつまでもお楽しみいただくためには日頃のお手入れがかんじんです。

ピアノやオルガンと同じ取り扱いをしていただければ問題ありませんが、特に次の点にはご注意ください。



- 使用後は必ず電源スイッチを切ってください。(電源スイッチを切り忘れても、スライド蓋をしめることで電源が切れます)
- 直射日光は避けてください。
- 外装の塗装はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製のカバーはご使用にならないでください。
- 湿気や熱も避けてください。
- 蓋の上には重い物をのせないようにしてください。
- 蓋を上を持ち上げないでください。
- 蓋の上にヘアピンやコイン等を置いたまま開けると、それが内部にはいって故障の原因になることがあります。
- 鍵盤のお手入れは水を含ませた柔らかな布できれいにふきとって行ってください。アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対使わないでください。
- テレビ、ラジオをエレクトーンの近くでお使いになると、テレビ、ラジオに雑音が入る場合があります。そのときはエレクトーンからできるだけ離してご使用ください。
- エレクトーンには交換用のヒューズはついていませんが、もしヒューズが切れたと思われる場合でも、絶対にご自分では交換をなさらないで販売店もしくは、日本楽器電音サービス係までご連絡ください。
- 長くご使用にならない時や、雷が鳴っている時などは、電源コードをコンセントからはずしてください。

このような現象は故障ではありません

下記のような、故障でない現象でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金をいただきます。

●電気的な現象

現象	原因	解決法
スイッチを入れても、すぐに音が出ない。	エレクトーンが正しく作動するためには、4秒くらいの時間があるため。	エレクトーンが正確に作動する証拠です。ご心配いりません。
時々雑音が入る。(ガリツとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源入、切り時。 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど。	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う。 ②ネオンなどの故障を修理する。 ③原因不明あるいはご不審の点は日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。
ラジオやテレビ等に雑音が入る時がある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあるとき。	ラジオやテレビはなるべくエレクトーンから離してご使用ください。
ラジオやテレビ等の電波が入る時がある。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある。	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあるので、どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる。	本体のスピーカーで音を出している時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがある。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。
ペダル鍵盤は同時に2音を押さえても1音しか出ない。 また、上・下鍵盤は同時に8音押さえても、それぞれ7音しかでない。	ペダル鍵盤は1音、上・下鍵盤はそれぞれ7音ずつの音しか出ないようにしています。これは、演奏上、設計上の理由からです。	ペダル鍵盤は高音優先、上・下鍵盤は先に押さえられた鍵盤を優先します。
エレクトーンに鼠が入って故障を起こした場合。	エレクトーンの内側に鼠が入り束線その他を切ったりするため。	保証期間中でもサービス料金を頂きます。鼠の入るおそれのあるところは、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電音サービス係までご相談ください。実費にて防鼠処理をさせていただきます。
トレモロを作動したとき、風切り音が入る。	トレモロ用ドラムが回転する音です。	トレモロが正しくかかる証拠です。ご心配いりません。
ヘッドホンを使うとトレモロ効果がかからない。	トレモロ効果は、スピーカーの前にあるドラムの回転によって音をうねらせ、独特の雰囲気を作り出すものですが、ヘッドホンを使った場合はスピーカーの信号(楽音)が遮断されてしまうためにトレモロ効果のない音になります。	

●取り扱いによる現象

現象	原因	解決法
電源を入れたまま振動やショックを与えると雑音が出る。	内蔵のリバブレーション装置に柔らかいスプリングを使用しているため、振動が伝わるため。	①使用中は、大きな振動やショックを与えないようにしてください。 ②エレクトーンはぐらつかないように設置してください。 ③移動する時は、電源スイッチを切るか、リバブレーションを上に向けてリバブがかからないようにしてから移動してください。
レスポンスがきかない。アタック音が出ない。	サステイン、またはダンパー（アタック音の場合のみ）タブレットが入っているためです。	サステイン、またはダンパータブレットをOFFにしてください。
フルートレスポンスを入れると、音が出る時、プツという音が入る。	音の立ちあがり時間が早くなるため、その切りかわり時点で発生するものです。	この音はクリックと呼ばれ、このような効果をねらったものです。スローテンポでムーディーな曲には合いませんが、パンチのきいた曲には貴重なものです。
シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードのボタンを入れてもオートベース/コードが作動しない。	オートベース/コードはリズムミックコードおよびペダル鍵盤トーンレバーがセットされていなければ音は出ません。また、オートリズムが作動していない時はリズムをきざまず持続音となります。	必ずリズムミックコード、ペダル鍵盤トーンレバーをセットしてください。また、リズム伴奏がしたい時は必ずオートリズムをONにしてください。
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方を押さえても低い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音が出るようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出ます。	
オートベース/コードでフィンガードコードとメモリーのボタンを押すと、押さえたはずの和音とは違った和音がきざまれる。	コードをチェンジするとき、瞬間的に関係のない鍵盤に触れて、それを機械がすばやくキャッチするためです。	①正確にコードチェンジを行なってください。 ②メモリーボタンをOFFにしてください。
下鍵盤やペダル鍵盤が鳴りっぱなしになってしまう。	①オートベース/コードのコンスタントがONで、さらにメモリーもONになっているためです。 ②オートリズムがきざまれていて、メモリーがONになっているためです。	オートベース/コードのメモリーのローボタンとペダルボタンをOFFにしてください。
オートベース/コードを使っている時、スペシャルプリセットを下鍵盤に移しても、スペシャルプリセットの音色が出ない。	オートベース/コードを使っている時は、下鍵盤ではリズムミックコード、トーンレバー、カスタムボイスの音色が出るようになっています。	
オートアルペジオのボイスのレバーをさげただけでアルペジオされる。	ボイスのレバーをさげると、パターンの中の左から2番目の下のパターンでアルペジオされます。	アルペジオが必要でないときは、アルペジオボイスのレバーをさげないでください。
音色セレクトボタンを入れても、ソロ鍵盤から音がでない。	カプラーのソロトウペダルタブレットが入っているためです。	ソロトウペダルのタブレットをOFFにしてください。

●楽器としての現象

現象	原因	解決法
音が割れる。(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の障子、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする。 ②共鳴物を取り除く。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。	

サービスと保証について

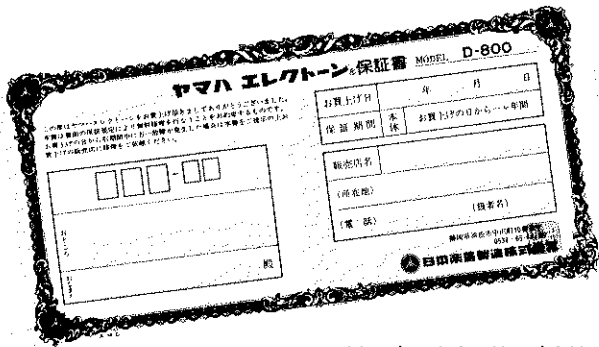
保証

エレクトーンのご購入は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけ下さるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきまず販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いした時に今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめ下さい。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(46~47ページの「このような現象は故障ではありません」参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせ下さい。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせ下さい。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●エレクトーンの音を出さなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせ下さい。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせ下さい。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく正確に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時が都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記お問い合わせ先にご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハのサービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記日本楽器支店が責任をもってアフターサービスを行っております。

●お問い合わせ先

本 社／浜松市中沢町10-1・電音サービス課
☎(0534)65-1111

北海道支店／札幌市中央区南十条西1-4・電音サービス係
☎(011)512-6111

仙台支店／仙台市原町南目薬師堂北2-1・電音サービス係
☎(0222)95-6111

千葉支店／千葉市千葉港2-1千葉中央コミュニティセンター内・電音サービス係 ☎(0472)47-6611

関東支店／高崎市歌川町8番地高崎センター内・電音サービス係 ☎(0273)27-3366

東京支店／東京都中央区銀座7-9-18パールビル内・電音サービス係 ☎(03)572-3111

横浜支店／横浜市中区本町6-61-1・電音サービス係
☎(045)212-3111

浜松支店／浜松市幸町3丁目5-8・電音サービス係
☎(0534)74-0311

北陸支店／金沢市泉本町7-7・電音サービス係
☎(0762)43-6111

名古屋支店／名古屋市中区錦1-18-28・電音サービス係
☎(052)201-5141

大阪支店／大阪府吹田市新葎屋下1-16・電音サービス係
☎(06)877-5151

神戸支店／神戸市葦合区浜辺通り6丁目1-36・電音サービス係 ☎(078)232-1111

広島支店／広島市安佐南区祇園町西原862・電音サービス係
☎(08287)4-3787

四国支店／高松市西宝町2丁目6-44・電音サービス係
☎(0878)33-2233

九州支店／福岡市博多区博多駅前2-11-4・電音サービス係
☎(092)472-2151

エレクトーン豆辞典 (索引としてもお使いください)

()内は本書で説明しているページ数です。

●アタック音 (P.6)

上鍵盤トーンレバー音色のひとつで、音の立ちあがり鋭い減衰音です。主に他のトーンレバーと組み合わせて使います。

●アタックレングス (P.12)

アタック音が消えるまでの時間をコントロールするレバーです。

●アップパー

アップパーとは「上」という意味。エレクトーンでは上鍵盤関係のことをさします。

●アップパープリセット (P.6、23)

上鍵盤トーンレバーのうち、特別な音色がセットされているレバーで、ビブラフォン、コンビネーション1、コンビネーション2の3種類あります。

●EXP-IN (P.43)

シンセサイザーなどと接続する端子です。

●エクスプレッションペダル (P.5)

エクスプレッションとは「表現する」という意味で、演奏しながら音の強弱を表現できるペダルです。

●ABC (P.18、35)

エレクトーンでは、オートベース/コード (Auto Bass Chord)のことを、頭文字をとってこう呼ぶことがあります。

●エフェクト

サステインやビブラートのような「効果」のことです。

●AUX-IN (P.43)

レコードやテープをエレクトーンから再生したい時、ステレオなどと接続する端子です。

●AUX-OUT (P.43)

テープに録音したり、他のアンプから音をだしたい時に接続する端子です。左右別々に接続することもできます。

●オクターブ

ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラ音色 (P.6、13、28)

トーンレバーのうち、フルート以外の、ストリング、クラリネット、チェロなど、オーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートアルペジオ (P.20、37)

アルペジオとは和音を分散して連続的に奏する奏法のこと。エレクトーンでは、この複雑な奏法が自動的に得られます。

●オートベース/コード (P.18、35)

下鍵盤を押さえるだけで、複雑な和音のリズム伴奏が得られる自動伴奏機能です。

●オートリズム (P.16、31)

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやロックなどのリズムを自動的に流す機能です。

●オルガン

オルガンには、パイプオルガン、リードオルガン、電子オルガンなどがあります。エレクトーンのとーンレバー音色はパイプオルガンに似た音色が得られます。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互にだす、基本的なベース奏法のこと、オートベース/コードを使えば自動的に得られます。

●音色 (P.6、23)

「ねいろ」のことです。エレクトーンのとーンレバーやボタンには、フルートやストリングなどの音色名がついています。これは表示されている楽器の音をイメージしてつくられた「音色」です。

●音程

音と音との間隔のこと、同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音符

音の長さを示す記号で、五線符上の位置で音の高低も示します。

●音名

音の高さを呼びあわす名前のことです。日本語ではハニホヘトイロ、イタリア語ではドレミファソラシ。エレクトーンでは、特に伴奏をつける場合、アメリカやイギリスで使っているC D E F G A Bをよく使います。

●音量

音の強さ、大きさのことです。音は波形や周波数が同じでも、音量が異なっているとちがった感じに聞こえます。

●カスタムボイス (P.9、24)

カスタムというのは「注文してつくった」というような意味です。スペシャルプリセットと同じように自然楽器に近い音がセットされている音色で、音質レベルが高く、音色、音量も微妙に変化します。

●カスタムA・B・C (P.35)

A B Cのボタンのひとつで、このボタンを選ぶと、リズムコードの音色は下鍵盤で押さえたとおりの和音で伴奏をきざみ、ベース音はペダル鍵盤で踏んだ音を基音に自動伴奏されます。(オートリズムに連動します)

●カブラー (P.27)

ソロ鍵盤の音色を上鍵盤またはペダル鍵盤に移し、それぞれアンサンブルさせるタブレットです。

●カブラー効果 (P.23)

ひとつの鍵盤を押さえることによっていくつもの鍵盤を同時に押さえたのと同じような厚みのある音を得られる効果です。

●強弱記号

演奏する音の大きさを指示する記号です。p(ピアノ)とか、mf(メゾフォルテ)などがあります。

●休符

音のない場所と長さを示す記号です。長さは、同名の音符に準じます。

●グライド (P.15、29)

音を半音さげる効果です。このタブレットを入れ、鍵盤を押さえたままフットスイッチを押すと、その間は音を半音さげることができます。

●クリックストップ (P.6)

トーンレバーやビブラートのレバーなどを上下にゆっくり動かしてみると、途中2カ所に軽い手ごたえがあって、レバーをセットできるようになっています。これをクリックストップ式といいます。

●クレッシェンド (<=)

だんだん演奏する音を大きくするよう指示する記号で、デクレッシェンド(=>)は逆に小さくするよう指示します。

●減衰音

鍵盤を押さえ続けても、途中で自然に消えていく音です。アタック音やスペシャルプリセットのピアノなどは減衰音です。

●鍵盤楽器

ピアノやオルガンなど、鍵盤をもった楽器の総称で、エレクトーンもそのひとつです。

●黒鍵

白鍵の間にはさまって、白鍵と半音の音程になっています。

●コード (P.19)

和音のことです。エレクトーンでは、主にコードによって伴奏をつけます。

●コードネーム (P.19)

和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音のことです。

●コーラス (P.13、28)

「合唱」の意味ですが、エレクトーンでは、ゆっくりとしたトレモロ効果が得られるタブレットにこの名前がついていて、ひろがりのある響きになります。

●根音

和音のもとになる音で、ドミソの和音ならドが根音です。コードネームは根音をアルファベットで表わします。A B Cのシングルフィンガーコードで伴奏をつける時は、この根音を押さえるだけで自動的に和音が得られます。

●コンスタント (P.36)

A B Cとオートリズムの連動をキャンセルするボタンです。このボタンを押すとリズムコードの音はでなくなり、ベース音は持続音になります。

●コンビネーション (P.6)

「組み合わせ」という意味で、あらかじめトーンレバーを組み合わせさせた音色がセットされているレバーです。

●サステイン (P.14, 30)

鍵盤から指を離してもしばらく音が残る余韻をつける効果です。上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤の音それぞれにかけることができます。

●持続音

鍵盤を押さえている間、ずっと持続してでてくる音です。エレクトーンの音色のほとんどはこの持続音です。

●ジャズロック (P.17)

オートリズムのリズムパターンのひとつです。ファンキーなロックビートがきざまれます。

●16ビート (P.17)

最近ロックなどでよく使われるリズムで、オートリズムのセレクトボタンに用意されています。

●シングルフィンガーコード (P.18)

ABCのボタンのひとつです。このボタンを選ぶと、下鍵盤でコードの根音(例えばドミソならド)をひとつ押さえるだけで、リズムミックコード、ペダル鍵盤トーンレバーの音色などが自動的に和音伴奏されます。(オートリズムに連動します。)

●シンクrostart (P.16)

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。エレクトーンでは、下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると同時に、オートリズムやABCなどをスタートさせるスイッチのことをいいます。

●シンフォニックコーラス (P.13, 24, 28)

オーケストラのような広がりをもたせる効果で、3チャンネルのスピーカーから迫力のある響きが得られます。トーンレバー音のほか、スペシャルプリセット、カスタムボイス音色にもかけることができます。

●スイング (P.17)

オートリズムのセレクトボタンのひとつで、ジャズの標準的リズムです。スタンダードナンバーなどに適しています。

●スタックアート (・)

音を短く切って軽快に演奏するように指示する記号です。サステインを使って演奏する時はスタックアートで弾いた方が、音がにごりません。

●ストリング (P.6)

「弦」のことです。エレクトーンの上鍵盤トーンレバーには、弦楽器の音をイメージしてつくったストリング音色があります。

●スペシャルプリセット (P.8, 24)

プリとは「あらかじめ」という意味。つまりあらかじめセットされた音色のことです。上鍵盤または下鍵盤の音づくりに使います。単独でも、トーンレバー音色とミキシングしても使えます。

●スラー (〳)

音を流れるようになめらかに、次の音に移行させる弾きかたを指示する記号です。

●セレステ (P.13, 28)

シンフォニックコーラスの左端にあるタブレットで、これをいれるとシンフォニックコーラスのかかりかたがゆったりとなり、荘厳な響きになります。

●速度記号

曲を演奏する時の速さを示す記号で、ある音符が1分間にきざむ数字で示す方法(例、♩=72)と、言葉で示す方法(例、allegro、moderato)とがあります。

●ソロ鍵盤 (P.10, 26)

主にメロディーのソロをとるための鍵盤で、シンセサイザー方式の採用により、実際の楽器もっている特徴を備え、豊かで、生き生きとした音色が得られます。

●ツインマレット効果 (P.24)

マレットとは、木琴などで使うスティックのことで、2つ以上の音を交互に、小さく出す高度な演奏をツインマレット奏法といいます。スペシャルプリセットの音色には、これが自動的に得られるものがあります。

●ディアパゾン (P.7)

パイプオルガンの基本的な音をイメージしてつくった重厚な音色で、下鍵盤トーンレバーのひとつです。

●セブンスコード (P.19)

ある音を根音に、3度の音を2つ重ねると普通の三和音になりますが、さらに3度上の音、つまり7度の音を加えた和音をセブンスコードといいます。エレクトーンの楽譜ではG7、A7というように表わします。

●タイ (〳)

同じ音程の音符が続いて並んでいる時、指を離さずに続けて弾くことを指示する記号です。

●タッチ (P.27)

指のタッチでビブラートやワウ効果をソロ鍵盤の音色にかける機能です。ソロ鍵盤自体を左右にふるわせることで、自由自在に効果がかけられます。

●ダブルリード (P.10)

オーボエやファゴットのように、リードを2枚もった木管楽器のことで、ソロ鍵盤の音色に用意されています。

●タブレット

エレクトーンのスィッチのなかで、たて長のシーツースイッチをタブレットといいます。手前を押すとON状態になります。

●ダルセーニョ (D.S.)

曲の途中で、この記号のところまできたら、※記号までもどります。

●断続音

エレクトーンのほとんどの音色は、切れ目のない音色ですが、スペシャルプリセットのバンジョー、マンドリン、マリンバ音色は、くり返し音がこまかくきざまれる断続音です。

●ダンパー (P.15, 29)

エレクトーンでは、演奏中サステインをかける機能をいいます。フットスイッチの操作で得られる効果のひとつです。

●チェック (P.34)

リズムシーケンスプログラマー機能のひとつで、記憶させたリズムを試聴するためのボタンです。1小節ずつ順次にチェックしていくことができます。

●中央ハ

鍵盤のほぼ中央にある音で、高音部譜表の下1線上に記されます。1点ハ音、c1とも書きます。

●チューバ (P.7)

金管の低音楽器です。エレクトーンのパedal鍵盤トーンレバー音色のひとつに、この楽器音をイメージしたものがあります。

●チューン (P.11, 26)

ソロ鍵盤の音程を調節するレバーで、他の鍵盤の音程と合わせたり、微妙にずらしたりします。

●ディスコ (P.17)

ロック系の新しいリズムです。オートリズムのセレクトボタンに用意されています。

●ディレイビブラート (P.12, 27, 28)

鍵盤を押さえてから、しばらくしてビブラートがかかる効果です。

●デジタルディスプレイ (P.16, 33)

オートリズムの速さや、リズムをスタートさせてからの小節数、拍数などが数字で表示されるもので、演奏中やリズムをプログラムする時に便利です。

●テヌート (—)

音の長さを十分保つように指示する記号で、いくぶん長めに演奏します。

●転回和音

和音の根音を移動したもので、ドミソであれば、ミソド、ソドミが転回和音です。オートアルペジオのブロックボタンを使うと、自動的に転回和音でアルペジオが得られます。

●テンポインジケーターランプ (P.31)

オートリズムをスタートさせている時、第1拍目に赤く点灯するランプです。

●テンポコントロール (P.16, 31)

オートリズムのリズムがきざまれる速さ(テンポ)を調節するつまみです。

●ト音記号 (♩)

高音部の楽譜(メロディー譜)の最初に書かれている記号で、ト(G)の音の位置を示しているためト音記号と呼ばれています。

●トーンキャビネットコネクター (P.43)

エレクトーンの背面についている端子です。ヤマハトーンキャビネット用と、レスリースピーカー用があります。

●トラミュート (P.10)

弱音器(ミュート)をつけたトランペットの音色で、ソロ鍵盤の音色のひとつに用意されています。

●トランスポジション(P.11、26)

ソロ鍵盤の音程を、そのまま1オクターブ高くしたり、低くしたりするレバーです。

●トレモロ (P.13、28)

トレモロとは、音を同じ音程でくり返し、音をうねらせる効果です。エレクトーンでは、トレモロスピーカーの前にあるドラムを回転させてこの効果をかけます。

●ローレバー (P.30)

エレクトーンの棚板下にあるレバーで、ひざを右に動かして操作します。これを使うと、演奏中、任意にサステインをかけることができます。

●ノーマル (P.17、19、34)

「普通の」という意味で、ABCのノーマルボタンは、ABCをキャンセルして普通の演奏をする時に使います。オートリズムのノーマルボタンは、バリエーションをキャンセルしたり、プログラムしたリズムの再生状態をキャンセルする時に使います。

●パーカッションディケイ (P.15、30)

普通の特続音を立ちあがりの早い減衰音にする効果で、上鍵盤のフルート音色にかけることができます。

●白鍵

鍵盤の白い部分で、音名(CDEFGAB)で表わされる音がなっています。

●ハーブシコード (P.8、10)

チェンバロともいわれ、16~18世紀頃によく使われた鍵盤楽器です。スペシャルプリセットにこの楽器の音をイメージしてつくった音色があります。

●バラード (P.17)

オートリズムのセレクトボタンのひとつで、スイングにアフタービートのかかったものです。スローなポピュラーソングに適しています。

●ビブラート (P.12、27、28)

音をこきぎみにふるわせ、うるおいをつける効果です。ムードな曲やスローテンポの曲に適しています。

●ビブラフォン (P.6)

ファンが組み込まれた共鳴筒をもつ鉄琴です。エレクトーンの上鍵盤トーンレバーに、この楽器によく似た音色がセットされています。

●拍子記号

曲の拍子を示す記号で、楽譜の最初に分数で書かれています。4/4拍子と2/4拍子はそれぞれC、Cと書くこともあります。

●ファニー (P.9、10)

「おもしろい」という意味で、カスタムボイスやソロ鍵盤の音色には、ワウワウ効果をもったファニー音色があります。

●ファンブロック

ファンとは「楽しみ」のこと。エレクトーンでは、自動的に伴奏が楽しめるオートベース/コードなどの機能をいいます。

●フィート (P.23)

音の高さを表すもので、「と書きます。もともとパイプオルガンのパイプの長さに由来しています。

●フィンガードコード (P.19)

ABCボタンのひとつで、この赤いボタンを押し、下鍵盤で和音を押さえると、リズムミックコードとペダル鍵盤トーンレバーの音色で、自動的にリズム伴奏されます。(オートリズムに連動します)

●フェイド・アウト

F・Oと表示されていることもあります。音楽では、音をしだいに小さくして、自然に消えていくような弾き方をするように指示する記号です。

●フェルマータ (ハ)

音符よりも音を長く伸ばして弾くように指示する記号です。

●フットスイッチ (P.15、29)

エクспRESSIONペダルの左奥にあるゴムのスイッチで、右足の先で左に押しして操作します。これを使うと、演奏中にグライドやダンパー、リズムストップなどの効果が任意に得られます。

●付点音符 (♪)

音符の右に小さな点をもつもので、もとの音符の半分の長さが加えられます。

●ブライト (P.24、26)

カスタムボイスやソロ鍵盤の音色を変化させるレバーで、メロー側にセットすると、やわらかい感じになり、ブリリアント側はきらびやかな感じになります。

●ブリリアンス (P.12)

音色全体をきらびやかで明るい感じにする効果です。

●プリセットアンサンブル (P.25)

スペシャルプリセットとカスタムボイス音色の使い方を決めるタブレットです。それぞれのスイッチの役割をするタブレットと、上鍵盤トーンレバーとミキシングさせたり、下鍵盤に移したりするタブレットがあります。

●フルート音色 (P.6)

エレクトーンの最も基本的な音色で、いろいろなレジストレーション(音づくり)のもとになります。音程も一番多く用意されています。

●ブレイクバリエーション (P.17、31)

リズムにアクセントをつける変則リズムです。オートリズムを鳴らしている時、ONスイッチを押せば、それまで鳴っていたリズムに代わってこの変則リズムが鳴りはじめます。

●ブロック (P.20、37)

和音とはほぼ同義語です。オートアルペジオのブロックを他のパターンセレクトボタンと一緒に使うと、アルペジオが和音で得られます。

●へ音記号 (F)

低音部の楽譜(伴奏譜)の最初に書かれている記号で、へ(F)音の位置を示しています。

●変調

曲の途中で、調子(キー)を変えることです。

●ペダルス (P.7)

エレクトーンでは主にペダル(足)鍵盤関係のことをさします。

●ペダルピッチコントロール (P.23)

ペダル鍵盤の音程を微妙に調節するつまみです。

●ヘッドホンジャック (P.43)

ヘッドホンを接続する端子です。夜間の練習などにご利用ください。ステレオヘッドホン用の端子もあります。

●ボイス (P.20)

「声」という意味ですが、エレクトーンでは音色と同じような意味に使います。オートアルペジオの音色は、ボイスと呼んでいます。

●ボーカルアンサンブル(P.9、24)

人間のコーラスをイメージしてつくった音色で、テナーとソプラノの2つがカスタムボイスに用意されています。

●ポップロック (P.17)

オートリズムのセレクトボタンのひとつで、楽しい感じがするロックのリズムです。ポピュラーソングに適しています。

●ポルタメント (P.26)

ひとつの音から他の音へ移るとき、すべるように音を連続させる効果で、ソロ鍵盤の音にかけることができます。

●マイナーコード (P.19)

短調の和音です。Am、Emのように表わします。ABCのシングルフィンガードを使っている時は、下鍵盤と同時にペダル鍵盤の黒鍵を踏めば、メジャーコードからマイナーコードに変わります。

● **マスターボリューム (P.5)**

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

● **マニュアル**

手鍵盤のことです。

● **マニュアルバランス (P.7)**

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。

● **マルチベース (P.19)**

A B Cを使って自動伴奏をしている時、このボタンを押すと、ベース進行のパターンが変化します。選んだリズムによって、ベースパターンは異なりますが、マルチベースによってさらに複雑な、いく通りものベース進行が得られます。

● **メジャーコード (P.19)**

長調の和音のことで、C、Fというように表わします。A B Cのシングルフィンガーコードを使っている時、下鍵盤をひとつ押さえると、その音を根音にしたメジャーコードが得られます。

● **メトロノーム (P.17)**

曲の速さをはかる機械のことですが、オートリズムのセレクトボタンのひとつに用意されています。メトロノームとして使えば、レッスンの時に便利です。

● **メモリー (P.19)**

A B Cやオートアルペジオを使って自動伴奏している時、このボタンを押すと、下鍵盤から指を離しても、同じ伴奏が自動的にくり返されます。ローとペダルの2つのボタンがあり、下鍵盤とペダル鍵盤のどちらかだけメモリーさせることもできます。

● **モジュレーション (P.27)**

「変化」という意味ですが、エレクトーンでは、ソロ鍵盤の音色にかけるビブラートやワウ効果のことをいいます。

● **ラテンロック (P.17)**

オートリズムのセレクトボタンのひとつで、ロックにラテンリズムをミックスした感じのリズムです。

● **リズムミックコード (P.18、35)**

オートリズムを使っている時に、このレバーを入れると、その音色がリズムにのってきざまれます。A B Cを使って自動伴奏をする時、リズムをきざむ下鍵盤の音色になります。

● **リズムシーケンスプログラマー (P.32)**

オートリズムのリズムを曲に合わせて記憶させ、演奏時に再生させる機能です。16の基本リズムのほか、それらのバリエーション、ブレイクバリエーションのパターンも1小節単位で記憶させることができます。

● **リズムセレクトボタン (P.17)**

ワルツ、スイング、ジャズロックなど、お好みのリズムをセットするボタンで、ひとつでも、組み合わせても使えます。

● **リズムバランス (P.16、31)**

オートリズムをきざむ高音のシンバル系と低音のバスドラムなどの音量のバランスを調節するつまみです。

● **リズムバリエーション (P.17)**

16あるセレクトボタンのリズムに変化をつけるボタンです。1、2、3の3種のバリエーションがあり、2つ以上同時に使うこともできます。

● **リタルダンド (rit.)**

だんだん遅くして弾くように指示する記号で、曲の終わりなどでよく使われます。

● **リバーブ (P.15)**

大きいホールで演奏しているように音がひろがる一種の残響効果です。

● **リピート (P.24)**

「くり返し」という意味ですが、エレクトーンでは、スペシャルプリセットのバンジョーなど断続して音がくり返される音色の、くり返し速さを調節するレバーをいいます。

● **臨時記号 (#、b、♭)**

曲の途中で、音の高さを一時的に変える記号です。半音上げる#(シャープ)、半音下げるb(フラット)、もとの音にもどす♮(ナチュラル)などがあります。

● **レガート**

「なめらか」に演奏するように指示する記号です。スラーよりもっと広範囲な表現で、全体に音を切らずに演奏します。

● **レジストレーション (P.38)**

演奏にあたって、その曲想に合った音づくりをするためにエレクトーンのリバーブやボタンなどの組み合わせを決めることです。

● **レスポンス (P.14、30)**

鍵盤を押さえた時と離れた時の音のでかたを変化させる効果です。フルート音色は立ちあがりと消えかたが早くなり、オーケストラ音色は逆に遅くなります。

● **ロー**

ローとは「下」のこと。エレクトーンでは主に下鍵盤関係のことをさします。

● **ワウ (P.27)**

ソロ鍵盤の音色にうるおいをあたえる効果で、「ワウワウ」という感じに、ゆっくりと音がふるえます。

● **ワウギター (P.7)**

ワウワウ効果のかかった音色で、オートリズムを使っている時は、リズムに合わせてきざまれます。

● **ワウプラス (P.6)**

プラスとは金管楽器のことで、これにワウワウ効果がかかっており、鍵盤を押さえた時に微妙に変化します。

● **和音**

音程のちがう音が2つ以上同時に響いたものをいいます。ドミソなどの三和音が基本になりますが、さまざまな種類があります。

本社・工場／〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL. 03(572)3111

銀座店／〒104 東京都中央区銀座7-9-14
TEL. 03(572)3131

渋谷店／〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL. 03(476)5441

池袋店／〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL. 03(981)5271

横浜支店／〒231 横浜市中区本町6-61-1
TEL. 045(212)3111

千葉支店／〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
TEL. 0472(47)6611

関東支店／〒370 群馬県高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL. 0273(27)3366

大阪支店／〒564 吹田市新薙屋下1-16
TEL. 06(877)5151

心斎橋店／〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL. 06(211)8331

神戸支店／〒651 神戸市灘合区浜辺通6丁目1-36
TEL. 078(232)1111

四国支店／〒760 高松市西宝町2丁目6-44
TEL. 0878(33)2233

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

北陸支店／〒921 石川県金沢市泉本町7-7
TEL. 0762(43)6111

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

福岡店／〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL. 092(721)7621

魚町店／〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL. 093(531)4331

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター内
TEL. 011(512)6111

仙台支店／〒983 仙台市原町南日薬師堂北2-1
TEL. 0222(95)6111

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL. 0822(48)4511

浜松支店／〒430 浜松市田町32
TEL. 0534(54)4115

エレクトーン®は当社の登録商標です。



YAMAHA

日本楽器製造株式会社